

昭和 41 年度

# 地力保全基本調査成績

〔樽前山南山麓地域 厚真町〕

北海道立中央農業試験場

# 序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剥脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成をえて基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和41年度に行なつた4地域、6町をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和42年3月

北海道立中央農業試験場  
三島京治

## 調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取りまとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土壌統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部土壌第3課)によつた。

土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

### 調査職員氏名

化学部	部長	長谷部 俊雄
"	土壌改良科 科長	後藤 計二
"	" 第1係長	小林 荘司
"	" 研究職員	高尾 欽彌
"	" "	菊地 晃二
"	" "	水元 秀彰

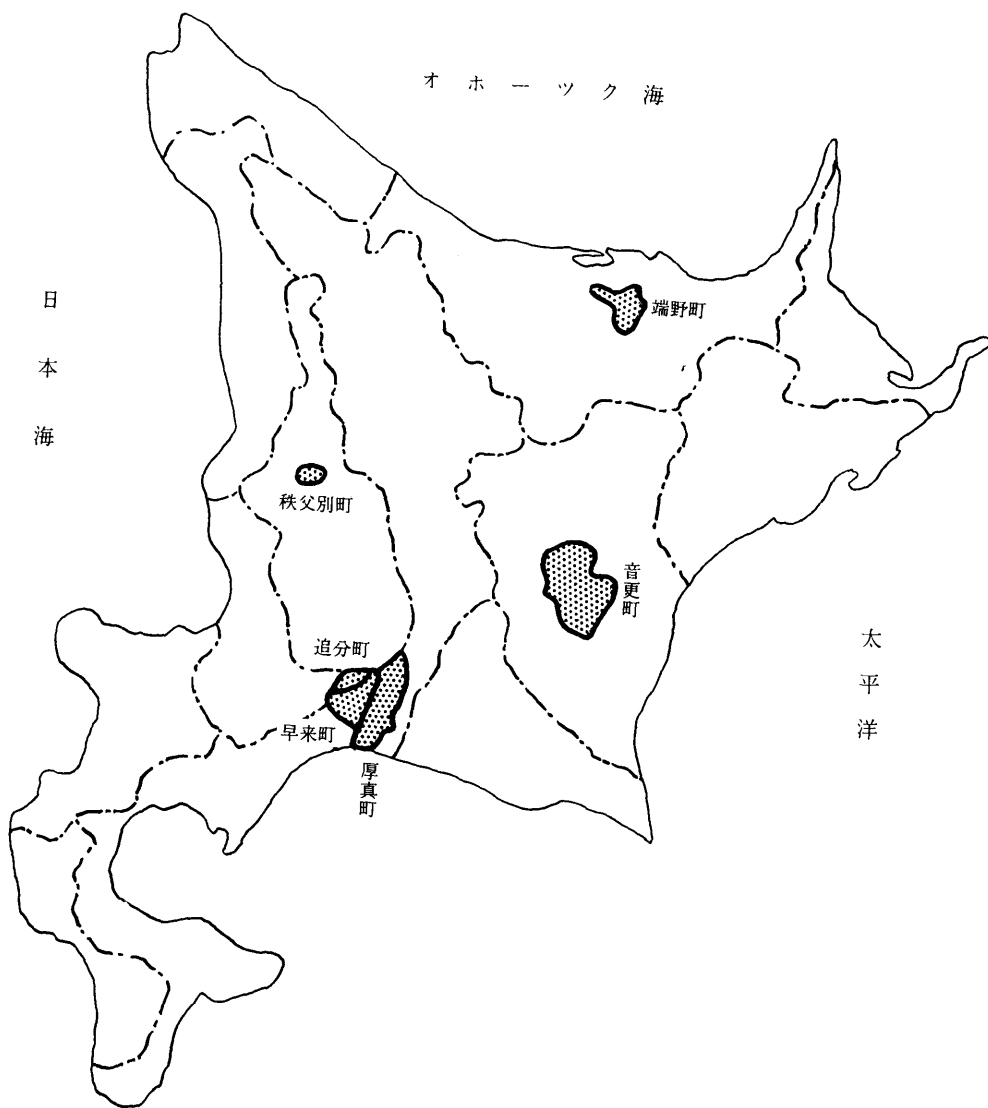
### 主に土壌分析を担当した職員

化学部	土壌改良科 研究職員	谷口 末吉
"	" "	村上 清子

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 郡・市・町・村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度 調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
十勝中部	河東郡音更町	1,446	20,759	—	—	1,446	20,759
北見	常呂郡端野町	982	4,949	—	—	982	4,949
空知北部	雨竜郡秩父別町	2,520	419	—	—	2,520	419
樽前山南山麓	勇払郡厚真町	2,365	1,674	—	—	2,365	1,674
	勇払郡早来町	724	2,277	—	—	724	2,277
	勇払郡追分町	323	911	—	—	323	911
合 計		8,360	30,989			8,360	30,989

調査地区位置図



# 樽前山南山麓地域 厚真町

## 1 地域の概要

### 1) 位置及び調査面積

(1) 位置 北海道勇払郡厚真町

(2) 調査面積(ka)

郡市町村名	農地総面積				調査対象面積				過年度調査面積			
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計
勇払郡厚真町	2,365	1,674	—	4,039	2,365	1,674	—	4,039	—	—	—	—

郡市町村名	本年度調査面積				次年度以降調査面積				備 考
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	
勇払郡厚真町	2,365	1,674	—	4,039	0	0	0	0	完了

### 2) 気 候

項目		月別									全 年
		4	5	6	7	8	9	10	11		
気 温 (℃)	平 均	5.5	10.9	15.2	19.9	21.4	16.7	10.6	3.3	7.0	
	最高平均	11.4	17.0	19.8	24.0	25.8	21.9	16.7	8.8	12.6	
	最低平均	— 0.4	4.8	10.6	15.7	16.9	11.4	4.5	— 2.3	1.3	
降 水 量 (mm)		7.7	10.0	10.3	11.8	15.7	16.2	10.8	8.2	1,06.9	
日 照 時 間 ※(h)		197.3	195.6	136.9	130.5	144.6	164.8	170.4	141.9	1,887.9	

※苫小牧測候所

晩霜：5月13日、初霜：10月14日、初雪：11月中旬、晩雪：4月中旬

太平洋に面するため海洋の影響をうけ、特に春季～夏季にわたり濃霧が来襲し、その間低温で作物の伸長が悪いが秋季は晴天が続く。冬季は積雪少なく、ために土壌は70cm内外まで凍結し、越冬性の牧草根は切断による凍害が認められる

### 3) 土地条件

本町の地形は低地と台地とに2区分される。低地は標高3～5mで海岸に平行し巾3～5kmにわたり所謂勇払原野と称する低湿地が広大に存し、また町の中央を北から南の海に沿く厚真川およびその流域に夾長な低地が存し、主として水田に利用され庫倉となつている。河川の下流域および勇払原野は海面との落差が少なく地下水位は高く、河川の改修、明渠などによる水位の低下を図つており、その効果は漸次あがつている。台地は標高10～50mの波状地で、侵蝕による小沢が多く平坦部の少ないところで耕地は極めて少なく、また土壌的要因によるが過干のおそれの多い土地である。

土壌は河川流域の部分を除き樽前山の噴出物で覆われた火山性土で、その層厚も数mと厚く堆積し、特に上層は噴出時期の新しい軽石の火山砂礫らなつている。これら火山灰は降灰年次により区分されているが、その概要を表層から示すと次の如くである。

樽前山火山灰a層(T a-a層と略記)：1～5mm内外の軽石層で、本町全域に降灰しているが、

樽前山より千歳市に厚く、高丘で20cm内外、幌里で15cm、豊川、美里、上野で11~14cm、上厚真、浜厚真、鹿沼で8~11cmである。

樽前山火山灰b層(Ta-b層と略記)：1~10mmでTa-a層より粒形の大きい軽石層で、樽前山より共和、共栄、軽舞に最も厚く、共和、共栄では100~110cm、軽舞で90cm、厚和で70cm、浜厚真、鹿沼で60cm、豊沢、新町で70~80cm、本郷、幌里で30~50cm、幌内、富里で30cm、上幌内、高丘で10~7cmである。

樽前山火山灰c<sub>1</sub>層(Ta-c<sub>1</sub>層と略記)：本町では砂壤土型の灰状で、腐植の集積が多く、埋没腐植層となつていて全域に堆積している。厚真町市街では層厚35~40cmで最も厚く、共栄、軽舞で25~30cm、厚和、鹿沼で10~20cm、高丘、幌内では20~25cm内外である。

樽前山火山灰d層(Ta-d層と略記)：樽前山噴出物のうち最も古いものである。本層は2つに区分され、上層は1~7mmの不均一な軽石およびスコリア礫が混在し腐植の集積が多く黒色を呈す。本層をTa-d<sub>1</sub>層とする。下層は10~15mmの軟弱な保水している軽石層で、赤褐色を呈するのが特徴で、本層をTa-d<sub>2</sub>層とする。本町ではTa-d<sub>1</sub>層がA層、Ta-d<sub>2</sub>層がB層の如き観を呈する土層状態を示す。厚真町市街、幌里では2m内外あつて、南北には層厚が激減し、豊沼以南には認められず、豊沢で30cm、奥幌内で100cm、高丘で70cm内外である。

以下恵庭火山灰層が堆積している。

河川流域はこれら火山灰層の上部に埴壤土~壤土型の河成堆積物を堆積していて、堆積層の層厚は上流域、中流域では20~50cmであり、下流域では河川に接近した部分が10~15cmと薄く堆積しているに過ぎない。

#### 4) 土地利用及び営農状況

農耕地総面積は3,481ha(昭和38年)でうち田2,259ha、畑1,222ha存在する。厚真川上流にダムが建設され、農用水に利用されるので今後造田によりさらに田面積の増加が可能となり年々増加している。田は火山灰層の上部に河成堆積物が堆積しているところは漏水もなく生産は高いが、堆積層を欠くところは粘土客土を進めているが漏水が多く、かつ気候的にも海霧およびそれによる低温の影響をうけ低収である。畑は海岸に存する低湿地帯および河川流域に接する台地に主に分布し、普通作物の栽培は極めて少なく殆んどが牧草地であり、その利用率は低い。いま土地利用、営農状況などの概要を示せば下表の如くである。(昭和38年度)

##### (1) 経営耕地面積と農家数

耕地面積 総数 (ha)	田 (ha)	畑 (ha)	総面積 に対する 割合	農家1 世帯当 耕地面積 (ha)	総人口 1人当 耕地面積 (ha)	農 家 数				従 事 者 数			
						総数	専 業	農業を主 とする兼 業農家	兼業を主 とする兼 業農家	世 帯 員	常 雇	季 節 雇	日雇
3,481.4	2,259.5	1,221.9	8.5	3.29	0.35	1,059	755	211	93	3,401	43	16	16,207

##### (2) 主要農作物作付面積および実収高

項目 \ 作物	水 稻	小 麦	大 麦	えん麦	えんどう	大 豆 (未成熟)	大 豆 (乾 燥)	いんげん (未成熟)
作 付 面 積	2,190.0 ha	11.7	2.8	486.6	3.7	3.5	86.1	6.5
収 量 (10a当)	396 kg	132	121	187	132	338	136	287
実 収 高	8,666 t	15	3	912	2	12	117	19

作物 項目	いんげん (乾燥)	小豆	玉蜀黍 (未成熟)	玉蜀黍 (乾燥)	そば	馬鈴薯	てんさい	牧草
作付面積	24.5	80.8	19.3	101.7	11.2	187.7	20.2	321.9
収量 (10a当)	148	93	451	202	96	1,377	2,000	2,359
実収入	36	75	87	205	11	2,585	404	7,598

(3) 家畜家禽飼養農家数および飼養頭羽数

	牛		馬	豚	めん羊	にわとり	牛乳生産量
	乳用	役肉用					
総数	580頭	5	1,357	165	229	23,849	1,280 t
飼養農家数	124戸	3	800	102	189	732	—

## 2 土壤類型区分および説明

### 1) 土壤統一覧および土壤区一覧

#### (1) 土壤統一覧

(畑)

土壤統名	色層序	腐植層 層序	礫、砂礫層、 礫を混在する 砂層	酸化沈積物	土性		母材	堆積様式
					表土	次層		
柏原	YR/YR	表層腐植層	あり	なし	砂質	礫質	非固結火成岩(軽石)	風積(火山性)
厚真	YR/YR	表層腐植層なし	〃	〃	〃	〃	〃	〃
高丘	YR/YR	〃	〃	〃	〃	壤質	〃	〃
上幌内	YR/YR	〃	なし	〃	壤質	〃	〃	風積(火山性)
静川	YR/YR	〃	あり	あり	砂質	礫質	〃	水積(河成堆積) 風積(火山性)
弁天	YR/YR	表層多腐植層	〃	〃	〃	砂質	〃	〃
富野	YR/YR	表層腐植層なし	〃	〃	壤質	〃	〃	〃
豊川	YR/YR	〃	〃	なし	粘質	壤質	非固結水成岩 非固結火成岩	水積(河成堆積) 風積(火山性)
幌内	YR/YR	〃	〃	〃	壤質	砂質	非固結水成岩	水積(河成堆積)
幌里	YR/YR	〃	〃	あり	〃	〃	〃	〃
ウトナイト	YR/YR	表層多腐植層	〃	〃	泥炭	〃	ヨシ/非固結火成岩	集積(低位泥炭) 風積(火山性)

(水 田)

土壌統名	色層序	腐植層 植序	礫、砂礫層、 礫を混在する 砂層	酸化 沈積物	土 性		母 材	堆 積 様 式
					表土	次層		
上厚真	YR/YR	表層腐植層なし	あり	あり	粘質	粘質	非固結火成岩	風積(火山性)
共栄	Y/Y	"	"	"	"	"	非固結水成岩	水積(河成堆積)
新町	GY/YR	"	"	"	強粘質	強粘質	非固結火成岩	風積(火山性)
東厚真	GY/Y	"	なし	"	粘質	粘質	"	"
富里	Y/Y	"	"	"	"	"	非固結水成岩	水積(河成堆積)
東和	YR/YR	"	あり	"	壤質	壤質	非固結水成岩・ 非固結火成岩	"
上野	YR/YR	"	"	"	"	"	非固結水成岩	水積(河成堆積)
下宇隆	YR/YR	"	"	"	粘質	強粘質	非固結火成岩	風積(火山性)
軽舞	YR/YR	表層多腐植層	"	"	強粘質	粘質	非固結水成岩・ 非固結火成岩	水積(河成堆積)
上宇隆	Y/Y	表層腐植層なし	"	"	壤質	"	非固結水成岩	"
北軽舞	Y/Y	表層多腐植層	"	"	強粘質	"	ヨシ 非固結火成岩	集積(低位泥炭) 風積(火山性)

(2) 土壌区一覧

(畑)

土壌区名	簡略分級式	面積(ha)	備 考
柏原 1	IIItdg(w)fni	120	農牧適地 1,606.6
" 2	IIItd(w)fni IIg	90	" 800.9
" 3	IIItd(w)fni IIg	17	" 2,264.6
厚真 1	III d(w)ni IItgfs	30	690.2
" 2	III n IItg(w)f	98	355.4
高丘	III n II f	65	317.6
上幌内	II fns	50	51.3
静川 1	Nw III d fni IItg	650	1,528.4
" 2	III t d w f n i II g	160	878.3
弁天	Nw III t d i II f n	27	994.8
富野	III d w i II t f n	85	772.2
豊川	III d i II t p f	145	463.3
幌内	II t g f n	39	84.8
幌里	III d w i II t f n	50	237.1
ウトナイ	Nw III t d f n i II a	48	319.8
	計	1,674	



(水 田)

土壌区名	簡略分級式	面積 (ha)	備 考
上厚真 1	IVd IIIlfi IIrn	6.8	
” 2	IVd IIIltni II f	25.5	
” 3	IVd IIIli IItrfn	6.6	
共栄	III dli IItpn	7.8	
新町	II d pni	4.8	
東厚	II p	6.1	
富里	II l f	46.5	
東和	II l f n	3.3	
上野	III d l n i II r f	48.5	
下宇	II d r f i	15.8	
軽舞	III n II l p f	39.5	
上宇	II d l f n	9.8	
北軽	III d l f i II t p r	15.0	
	計	236.5	

2) 土壌統別説明

柏 原 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は7~15cmで腐植含量は8%内外、土性はS、色は10YRで彩度1~3、明度3~5、未風化小半角礫(軽石)あり、単粒状或いは一部発達弱度の細粒状構造、ち密度疎、Ta-a層でその層厚15cm以下のところである。

第2層は4~6cmで腐植含量2%以下、土性はS、色は10YRで彩度4、明度5~7、単粒状でち密度疎、下層との境界は明瞭。軽石からなる砂丘砂層。

第3層は厚さ80~100cm、腐植を欠く土性はS、色は10YRで彩度2~6、明度5~8、未風化小半角礫(軽石)に頗る富む礫層、単粒状でち密度中、pH(H<sub>2</sub>O)5.8~6.7。

代表的断面形態

(所在地) 北海道苫小牧市静川試坑1635

第1層	0~6cm	腐植に富む暗褐(10YR3/3)のS、未風化小半角礫(軽石)あり、単粒状でち密度疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り半乾、下層境界判然。
第2層	6~9cm	腐植を欠く褐(10YR4/4)のS、未風化小半角礫(軽石)に富む、単粒状でち密度中、調査時の湿り半乾、下層境界明瞭。第1~第2層はTa-a層。
第3層	9~14cm	腐植を欠く灰褐(10YR5/4)のS、単粒状でち密度中、調査時の湿り半乾、下層との境界明瞭。本層は軽石の砂丘砂層。
第4層	14~38cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/6)のS、未風化小半角礫(軽石)に頗る富む、単粒状でち密度中、pH(H <sub>2</sub> O)6.2、調査時の湿り半乾、下層境界判然。

第 5 層	38 ~ 47 cm	腐植を欠く淡黄橙 (10 Y R 8 / 3) で未風化小半角礫 (軽石) の礫層、調査時の湿り半乾、下層境界判然。
第 6 層	47 ~ 49 cm	腐植を欠く淡黄橙 (10 Y R 8 / 4) の S、未風化小半角礫 (軽石) に頗る富む、調査時の湿り半乾、下層境界判然。
第 7 層	49 ~ 61 cm	腐植を欠く淡黄橙 (10 Y R 8 / 3) で未風化小半角礫 (軽石) の礫層。
第 8 層	61 ~ 80 cm	腐植を欠く淡黄橙 (10 Y R 8 / 2) の S、未風化小半角礫 (軽石) に頗る富む。
第 9 層	80 ~ 96 cm	腐植を欠く淡黄橙 (10 Y R 8 / 2) で未風化小半角礫 (軽石) の礫層。
第 10 層	96 ~ 113 cm	腐植を欠く淡黄橙 (10 Y R 8 / 2) で未風化小半角礫 (軽石) の礫層。 第 4 ~ 第 10 層は T a - b 層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0 ~ 9	1.7	74.4	20.3	4.4	0.6	S	2.5	4.72	0.45	10	8.1
2	14 ~ 38	1.7	—	—	—	—	G	2.5	—	—	—	—
3	38 ~ 125	7.7	44.1	26.3	19.9	9.7	S L	2.4	8.24	0.51	16	14.2
4	125 ~	7.2	21.3	45.3	24.7	8.9	S L	—	—	—	—	—

層位	p H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.0	5.6	0.30	4.6	3.2	0.8	0.1	69.6	885	4.3
2	6.2	5.2	0.30	3.1	1.6	1.1	0.1	51.6	888	2.1
3	6.1	4.9	1.00	13.8	10.0	0.9	0.5	72.5	1,302	tr
4	6.2	5.2	0.25	13.6	3.0	1.1	0.5	22.1	2,402	—

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては厚真統がある。厚真統は何れも T a - a 層が 15 cm 以上堆積するので区分することができる。

A-3 母材 非固結火成岩 (軽石)

A-4 堆積様式 風積 (火山性)

B 地形 台地上の平坦および緩波状地。

C 気候

年平均気温 7℃、年平均雨量 1,207 mm、春季~夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く、冬季は積雪少なく土壌は 70 cm 内外まで凍結する。

D 植生および利用状態

畑は大部分が牧草地で、一部豆類、麦類、燕麦、甜菜、馬鈴薯が栽培されている。また植林地域は山林も多い。

E 農業上の留意事項

粗粒火山灰が厚く堆積し一時的過干のおそれが甚だしく、また肥料の流亡も多い。従つて下層に存在 (2 m 内外) するローム層 (火山灰質の壤土~砂壤土で 1 ~ 1.5 m 内外の層厚を有する) の客土が必要である。また堆肥、緑肥の増施、遅効性肥料の利用に留意を要する。草地に対しては尿撒布が効

果的である。

F 分布 北海道厚真町厚和、軽舞、豊沢、苫小牧市、柏原、静川  
 調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）  
 年月日 昭和42年3月

(2) 土壌区別説明

柏 原 一 1

示性分級式(畑)

	土 壤	表 土	表 土	表 土	透 水	保 湿	保 固	土 置	養 分	障 害	災 害	傾 倒	侵 蝕
	生 産 力 可 能 性 等 級	効 率 土 質 厚 深 含 量	土 質 土 質 土 質	の 風 乾 粘 土 着 硬 性 性 量 易	水 潤 肥 定 塩 基 灰 土 里 酸 要 含 量	沃 状 豊 含 量	否	素 度 無 性 性 斜 向 斜 度 性 性	量 素 度 無 性 性 斜 向 斜 度 性 性	害 質 害 危 險	物 的 害 危 險	冠 す 水 べ り 然 為 水 風	自 傾 人 侵 耐 耐
III	tdgp	w	f	n	i	a	s	e					
	III III I 1 1 1 (III) 1 2 (2) III 3 2 1 III 3 2 3 2 - 1 III 1 3 I 1 1 I 1 - - I 1 1 1												
	簡略分級式 III tdg(w) fni												

A 土壌区の特徴

この土壌区は柏原統に属する。表土の厚さは5～18cmで一般に薄い。有効土層は40cm内外で浅い。表上の礫は多く、砂質で粘着性がなく耕起、砕土は容易である。透水性は大きく保水性は中～やや小さく一時的過干のおそれが多い。保肥力は小さく固定力は中備、塩基状態は良好であるが自然肥率は低い。各養分に乏しいが酸性は弱い。有効土層浅く障害をうける。ほぼ平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

畑は大部分が草地で、一部豆類、麦類、燕麦、甜菜、馬鈴薯が栽培されている。また植林地域は山林も多い。

C 地力保全上の問題点

粗粒火山灰が厚く堆積し、一時的過干のおそれが甚だしく、また肥料の流亡も多い。従つて表面より2m内外下層に存在するローム層(火山灰質で壤土～砂壤土層で1～1.5m内外の厚さを有す)の客土が必要である。また堆肥、緑肥の増施、遅効性肥料の利用を考慮すべきである。草地に対しては尿撒布が効果的である。

D 分布

北海道勇払郡厚真町厚和、軽舞、豊沢、苫小牧市、柏原、静川  
 記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）  
 年月日 昭和42年3月

示性分級式（畑）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 礫 厚 等 級	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 風 乾 粘 土 着 硬 性	透 水 性 湿 度	保 固 力 度	自 然 沃 沃 度	養 置 換 力 態 量 否	障 有 微 酸 石 苦 加 燐 基 灰 土 里 酸 要 狀 豐 含 量 否	災 有 物 理 的 障 害 有 害 性	傾 地 冠 す べ 然 の 危 険 斜 度	傾 入 斜 方 向 度	侵 耐 耐 風 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕 蝕
Ⅲ	tdgp	w	f	n	i	a	s	e				
	Ⅲ Ⅲ Ⅱ Ⅰ 1 1 (2)	Ⅲ 1 2 (2)	Ⅲ 3 1 1 Ⅲ	2 3 3 2 2 1	Ⅲ 1 3	Ⅰ 1 1	Ⅰ 1	—	Ⅰ 1 2 2			

簡略分級式 Ⅲ ↓ d(w) f n i Ⅱ g

**A 土壤区の特徴**

この土壤区は柏原統に属する。柏原一とはT a-a層は6〜9 cm、T a-b層がやゝ薄く60〜75 cm内外で軽石礫もやゝ小粒となつている。表土の厚さは未耕地では5〜8 cm、耕地で12〜15 cmで薄く、有効土層も20〜30 cmで浅い。表土は軽石の小半角礫を含む〜富むで、細粒状構造を含む単粒状を呈し、粘着性なく、耕起、碎土は容易である。透水性は大きく保水性は中〜やゝ小さく一時的過干の恐れが多い。保肥力、固定力は小さく自然肥沃度は低い。酸性はほぼ中性であるが有効態養分に乏しい。物理的障害が大き。地形は一部沢に面する斜面は4〜8°のところもあるが大部分は平坦な台地で、透水性が大きく侵蝕は認められない。

**B 植生および利用状況**

大部分は植林地（カラ松）或いは山林（カシワ、シラカバ、ナラ、イタヤ、エンジュ）となつていて耕地は少ない。耕地は主として牧草が栽培されている。

**C 地力保全上の問題点**

粗粒火山灰層が厚く堆積し一時的過干のおそれが多く、また保肥力も小さい。従つて下層に存在する埋没腐植層、ローム層の客土或いは混層が必要である。また堆肥、緑肥の増施、遅効性肥料の利用に留意を要する。草地に対しては尿撒布が効果的である。

**D 分 布** 北海道厚真町軽舞、豊丘

調査および記載責任者 後 藤 計 二 （北海道立中央農業試験場）  
 年 月 日 昭 和 4 2 年 3 月

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																	
壤	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	障	有	物	增	物	自	傾	人	侵	耐	耐				
効	土	土	土	土	土	土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風						
産	土	土	土	土	土	土	土	の	性	態	量	物	的	水	べ	り	然	為	水	風								
力	の	の	の	の	の	の	の	乾	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	の	の	蝕			
可	の	の	の	の	の	の	の	粘	土	基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕					
能	の	の	の	の	の	の	の	粘	土	基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕					
性	厚	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	"	"	有	害	險	險	傾	傾	蝕	蝕						
等	深	含	性	性	性	性	度	力	態	量	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性	性							
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否			
Ⅲ	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																	
Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	1	(2)	Ⅲ	3	1	2	Ⅲ	3	3	1	2	1	Ⅲ	1	3	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	—	Ⅰ	1	2	2
簡略分級式 Ⅲ t d (w) f n i Ⅱ g																												

A 土壤区の特徴

この土壤は柏原統に属する。T a - a 層は 10 ~ 15 cm であり、T a - b 層は 70 ~ 80 cm で、表面より 90 ~ 100 cm で下層の埋没腐植層 (T a - c 層) に達するところである。表土の厚さは未耕地では 5 ~ 8 cm、耕地で 15 cm 以下が多く薄い。また有効土層も 20 ~ 30 cm で浅い。表土は軽石の小半角礫を含む ~ 富むで、単粒状を呈する場合が多い。粘着性はなく耕起、碎土は容易である。透水性は大きく保水性は中 ~ や、小さく一時的過干の恐れが多い。保肥力、固定力は小さく自然肥沃度は低い。酸性はほぼ中性であるが、有効態養分に乏しい。物理的障害が大きい。況に面する斜面は 4 ~ 8° であるが大部分はほぼ平坦な台地である。透水性大きく侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

大部分は植林地 (カラ松) 或いは山林で、柏原 2 に比してカシワが少なく、シラカバ、ナラ、イタヤが多い。耕地は少なく牧草が主として栽培されている。

C 地力保全上の問題点

粗粒火山灰層が厚く堆積し一時的過干のおそれが多く、また保肥力が小さい。従つて下層に存在する埋没腐植層、ローム層の客土が必要である。また堆肥、緑肥の増施、遅効性肥料の利用などに留意を要する。草地に対しては尿撒布が効果的である。

D 分布 北海道、真町豊沢、厚真、豊川の台地

調査および記載責任者 後藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和 42 年 3 月

厚 真 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第 1 層は厚さ 12 ~ 18 cm で腐植含量 2 ~ 3 %、土性は S である。色は 10 YR で彩度 1 ~ 2、明

度2～4。未風化軽石小半角礫を含む～富む。発達弱度の細粒構造を僅かに混在する単粒状構造。ち密度は8～10で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)は6.0～6.5。下層との境界は明瞭である。Ta-a層。

第2層は厚さ20～35cmで腐植含量は1%以下、土性はSである。色は10YRで彩度3～6、明度は6～8。未風化軽石小半角礫に富む～頗る富む。単粒状構造。ち密度12内外で疎。pH(H<sub>2</sub>O)は6.0～7.0。下層との境界は明瞭。Ta-b層。

第3層は厚さ5～15cmで腐植含量は8～15%、土性はSLである。色は10YRで彩度1、明度1～2。礫はない。発達弱度の細粒状構造。ち密度10～13で疎、下層との境界は判然或いは明瞭である。

第4層は厚さ10～15cmで腐植含量は8～15%、土性はSLである。色は10YRで彩度1～2、明度1～3。礫はない。発達弱度の細粒状構造。ち密度8～13で疎。pH(H<sub>2</sub>O)は5.8～6.5。下層との境界は漸変している。Ta-c<sub>1</sub>層のA層。

第5層は厚さ15～25cmで腐植含量は2～3%、土性はSで1mm内外の軽石。色は10YRで彩度3～5、明度3～5。単粒状構造。ち密度14で疎。pH(H<sub>2</sub>O)6.0～6.5。下層との境界は明瞭である。Ta-c<sub>1</sub>層のC層。

第6層は25～35cmで腐植含量は5～15%、土性はSLである。色は10YRで彩度1～2、明度1～3。未風化小半角礫(軽石、発泡質スコリア)を含む。発達弱度の細粒状構造。ち密度は14前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.8～6.5。下層との境界は明瞭である。Ta-d<sub>1</sub>層。以下Ta-d<sub>2</sub>層が累積

#### 代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町字幌里(牧草畑)

第1層	0～16cm	腐植を含む黒色(10YR2/1)のS。単粒状。未風化小半角礫(軽石)を含む。ち密度10で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.5。調査時の湿り半乾。境界明瞭。Ta-a層、Ta-b層混合
第2層	16～35cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR6/4)のS。単粒状。未風化小半角礫(軽石)に頗る富む。ち密度12で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.9。調査時の湿り半乾。境界明瞭。Ta-b層。
第3層	35～40cm	腐植に富む黒(10YR1/1)のSL。発達弱度の細粒状構造。ち密度13で疎。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第4層	40～50cm	腐植に富む黒(10YR1/1)のSL。発達弱度の細粒状構造。ち密度14で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.6。調査時の湿り湿。境界漸変。
第5層	50～70cm	腐植を含む褐(10YR4/4)のS。発達弱度の細粒状構造。1mm内外の軽石。ち密度14で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.7。調査時の湿り半湿。境界明瞭。第3～第5層はTa-c <sub>1</sub> 層。
第6層	70cm～	腐植に富む黒(10YR3/1)のSL。発達弱度の細粒状構造。未風化小半角礫(軽石および発泡質スコリア)を含む。ち密度14で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.8。調査時の湿り湿。Ta-d <sub>1</sub> 層のA層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
5-1	0~16	2.0	77.4	18.0	3.6	1.0	S	1.64	0.15	11	2.78
2	16~35	0.8	97.6	1.7	0.5	0.2	S	—	—	—	—
3	35~50	6.4	50.0	28.2	21.5	0.3	S L	4.73	0.33		8.15
4	50~70	4.1	81.5	13.2	2.5	2.8	S	1.45	0.13	11	25.0
5	70~	12.1	39.2	40.6	19.2	1.0	S L	4.85	0.47	10	8.37

層位	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
5-1	6.45	5.35	0.30	7.7	4.9	0.3	0.1	63.1	429	6.1
2	6.95	6.35	0	0.1	0.3		0.0		101	6.0
3	6.55	5.45	0	285	20.3	2.7	0.0	71.4	2,162	tr
4	6.65	5.65	0	7.6	3.8	0.7	0.1	50.0	1,260	tr
5	6.75	5.7	0	37.2	26.2	2.3	0.2	70.6	2,964	tr

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては柏原統がある。柏原統は T a - a 層は層厚が 15 cm 以下であり T a - b 層は 70 ~ 80 cm あつて厚いため区分される。

A-3 母 材 非固結火成岩（軽石）

A-4 堆積様式 風積（火山性）

B 地 形 平坦および緩波状性台地

C 気 候

年平均気温 7 °C、年平均雨量 1,207 mm、春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く、冬季は積雪少なく土壌は 70 cm 内外まで凍結する。

D 植生および利用状態

畑は大部分が牧草地で、一部豆類、麦類、馬鈴薯などが栽培されている。しかし、植林地、山林の未利用地が多い。

E 農業上の留意事項

粗粒火山灰が厚く堆積し、一時的過干のおそれが多い。また保肥力が小さい。従つて下層に存在する腐植層（T a - c<sub>1</sub> 層、T a - d<sub>1</sub> 層）との混層が必要である。混層した場合、堆肥の施用、土壌改良資材の増投が必要である。遅効性肥料の利用、草地に対しては尿散布が効果的である。

F 分 布 北海道勇払郡厚真町高丘

調査および記載責任者 後 藤 計 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和 42 年 3 月

(2) 土壤区別説明

厚 真 - 1

示性分級式(畑)

	土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤	効	表	表	表	透	保	湿	保	固	土	置
生	土	土	土	土	地	然	層	分	換	効	害
産	土	土	土	土	の					量	害
力	の	の	の	の	風					態	物
可	の	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	肥
能	の	の	の	の	粘	土	塩	基	石	苦	加
性	厚	難	粘	乾	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃
等	深	含	含	含	含	含	含	含	含	含	含
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	否	否	素	無
											性
											性
											斜
											度
											斜
											度
											性
											性
											性

III t d g p w f n i a s e  
II III II I 1 1 (2)(III) 1 2 (2)II 2 1 1 III 2 3 3 2 2 1 III 1 3 I 1 1 II 2 -- I 1 2 2

簡略分級式 III d (w) n i II t g f s

A 土壤区の特徴

この土壤区は厚真町に属する。Ta-a層は15~17cm、Ta-b層は35~45cmの層厚の地域である。表土は14~16cm、有効土層は20~25cmで何れも薄い。表土は末風化小半角礫(軽石)を含む〜富み、粗粒質で粘着性はなく耕起、碎土は容易である。保水性は小さく、透水性は大きく土壤は一時的過干のおそれが多い。保肥力、固定力は小さく自然肥沃度は低い。酸性は中性であるが養分に乏しい。物理的障害が大きい。透水性が大きく侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

大部分が山林、植林地となっており、畑は少ない。

C 地力保全上の問題点

粗粒火山灰層が厚く堆積し、一時的過干のおそれが多い。また保肥力が小さい。従つて下層に存在する腐植層との混層が必要である。混層した場合は堆肥の施用、土壤改良資材(炭カル、磷酸)の増投を要する。遅効性肥料の利用、草地に対しては尿撒布が効果的である。

D 分 布 北海道厚真町幌丘

記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)  
年 月 日 昭和42年3月





明度1～2。発達弱度の細粒状構造。ち密度15～16で疎。pH(H<sub>2</sub>O) 6.2。下層との境界は漸変。Ta-c<sub>1</sub>層のA層。

第3層は厚さ7～15cmで腐植含量4～5%、土性はLSである。色は10YRで彩度3～4、明度2～5。発達弱度の細粒状構造および単粒状。ち密度15～16で疎。pH(H<sub>2</sub>O) 6.4。下層との境界は漸変。Ta-c<sub>1</sub>層のB層。

第4層は厚さ10～20cmで腐植含量2%以下、土性はLSである。色は10YRで彩度4～6、明度4～6。単粒状。ち密度21で中。下層との境界は明瞭。Ta-c<sub>2</sub>層のC層。

第5層は厚さ20～30cmで腐植含量8～10%、土性はSLである。色は7.5YRで彩度1～2明度1～3。発達弱度の細粒状構造。ち密度17で疎。pH(H<sub>2</sub>O) 6.2。下層との境界は明瞭。Ta-d<sub>1</sub>層

第6層は厚さ50～70cmで腐植を欠く、土性は甚だ脆弱な礫層(軽石)。色は2.5YRで彩度6、明度4～6。pH(H<sub>2</sub>O) 6.0。Ta-d<sub>2</sub>層。

### 代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町字上幌内(普通畑)

第1層	0～20cm	腐植を含む黒褐(10YR3/1)のS、単粒状。未風化小半角礫(軽石)あり。ち密度5で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 6.0。調査時の湿り半湿。境界明瞭。Ta-a層
第2層	20～35cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のSL。発達弱度の細粒状構造。ち密度16で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 6.2。調査時の湿り半湿。境界漸変。Ta-c <sub>1</sub> 層のA層
第3層	35～45cm	腐植を含む暗褐(10YR3/4)のLS。発達弱度の細粒状構造。ち密度16で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 6.4。調査時の湿り半湿。境界漸変。Ta-c <sub>1</sub> 層のB層。
第4層	45～60cm	腐植を欠く明黄褐(10YR6/6)のLS。単粒状。ち密度21で中。調査時の湿り半湿。境界明瞭。Ta-c <sub>1</sub> 層のC層。
第5層	60～85cm	腐植に富む黒(7.5YR2/1)のSL。発達弱度の細粒状構造。未風化小半角礫(軽石、発泡質のスコリア)を含む。ち密度17で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 6.2。調査時の湿り半湿。境界明瞭。Ta-d <sub>1</sub> 層
第6層	85cm～	腐植を欠く褐(2.5YR4/6)の風化小、中半角礫層(脆弱な軽石)。pH(H <sub>2</sub> O) 6.0。調査時の湿り湿。Ta-d <sub>2</sub> 層。

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 %	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
8-1		0.9	73.9	17.3	5.4	3.4	S	1.40	0.17	8	2.42
2		5.8	51.7	18.0	17.1	13.2	SL	4.85	0.53	9	8.37
3		5.4	76.8	13.2	6.8	3.2	LS	2.67	0.30	9	4.62
4		12.1	24.0	55.3	13.7	7.0	SL	5.49	0.65	8	9.45
5		17.4	15.9	39.4	36.7	8.4	L				

層位	pH		置換酸度 $Y_1$	塩基置換容量 $me/100g$	置換性塩基 $me/100g$			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 $mg/100g$
	$H_2O$	$KCl$			$CaO$	$MgO$	$K_2O$			
8-1	5.95	4.85	0.30	6.7	2.4	0.3	0.1	34.3	485	7.7
2	6.15	5.15	0.30	24.1	13.5	0.7	0.3	55.8	1,991	tr
3	6.35	5.35	0.30	14.4	6.0	1.8	1.5	41.6	1,739	tr
4	6.15	5.25	0.30	38.9	13.3	1.9	0.1	34.2	3,033	tr
5	6.0	5.45	0	29.5	6.9	1.6	0.1	23.1	3,490	tr

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては厚真統がある。厚真統はT a-a層は15cm以下、T a-b層は30~70cmあり、本統はT a-b層を欠き、作土の直下よりT a-c<sub>1</sub>層が出現するので区分される。

A-3 母材 非固結火成岩（軽石）

A-4 堆積様式 風積（火山性）

B 地形 平担および緩波状性の台地

C 気候

年平均気温7℃、年平均降水量1,207mm、春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続き、冬季は積雪少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

大部分が山林、植林地で、畑は小面積点在している。畑は麦類、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜、野菜などが栽培されている。

E 農業上の留意事項

作土は火山砂である下層は磷酸吸収係数の大きい土壌が堆積している。堆肥の施用、磷酸の増施に留意を要する。

F 分布 北海道勇払郡厚真町高丘

調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月

(2) 土壤区別説明

高 丘

示性分級式(畑)

土壌生産力可能性等級	表効土の層の厚性	表土の礫深さ	表土の風乾粘土難着便	表土の水分潤肥沃	自保固土然	養置層の性	養置層の苦灰土	障有微酸有物	障有物害質の有害	災増地冠す水のり	災増地冠す水のり	傾自傾人	傾自傾人	侵耐	侵耐
t d g p	w	f	n	i	a	s	e								
Ⅲ I I I I 1 1(2) I 1 1 1 II 2 1 2 III 3 3 3 2 2 1 I 1 1 I 1 1 I 1 -- I 1 2 2															
簡略分級式 III n II f															

A 土壤区の特徴

この土壤区は高丘統に属する。Ta-a層、Ta-c<sub>1</sub>層、Ta-d<sub>1</sub>層、Ta-d<sub>2</sub>層が累積し、Ta-b層を欠く地域である。作土の厚さは15～20cmで、有効土層も1m以上で深い。粗粒質で粘着性なく耕起、碎土は容易である。下層の透水性は大きいが保水性は中庸で過干、過湿のおそれはない。保肥力は中庸、固定力は小さく自然肥沃度は中位である。酸性は弱いが養分に乏しい。障害性はない。侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

大部分が山林、植林地で、畑は小面積点在している。畑は麦類、玉蜀黍、馬鈴薯、甜菜、野菜など稲作農家の自給畑となっている。

C 地力保全上の問題点

堆肥の施用、磷酸の増施に留意すべきである。

D 分布 北海道勇払郡厚真町字高丘

記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和42年3月

上 幌 内 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量2～5%、土性はSでSLの場合がある。色は10YRで彩度1で明度は2～3。発達弱度の細粒状構造を含む単粒状である。ち密度8～10で疎。pH(H<sub>2</sub>O)6.0～6.5。下層との境界は明瞭。Ta-a層。

第2層は厚さ10～15cmで腐植含量7～10%、土性はSLである。色は10YRで彩度1で明

度2～3。発達弱度の細粒状構造。ち密度15で疎。pH(H<sub>2</sub>O) 6.0～6.3前後。下層との境界は漸変。

第3層は厚さ10～15cmで腐植含量は2～5%、土性はLSである。色は10YR～7.5YRで彩度6、明度4。1mm内外の軽石砂。単粒状構造。ち密度17～23で中。pH(H<sub>2</sub>O)6.0～6.5。下層との境界は明瞭。第2～第3層はTa-c<sub>1</sub>層。

第4層は厚さ10～20cmで腐植含量は1.5～5%土性はSiCである。色は10YRで彩度2、明度4。発達強度の細粒状構造で孔隙に富む。ち密度23で中。pH(H<sub>2</sub>O) 6.0前後。下層との境界は漸変。

第5層は厚さ20～30cmで腐植含量は2%以下、土性はSiCである。色は10YRで彩度3、明度6。発達中度の細粒状構造で孔隙に富む。ち密度21で中。pH(H<sub>2</sub>O) 6.0前後。第4～第5層は水積(河成堆積)。

### 代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町字上幌内(普通畑)

第1層	0～20cm	腐植を含む黒(10YR2/1)のSL。単粒状。ち密度8で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.2。調査時の湿り半湿。境界明瞭。Ta-a層。
第2層	20～35cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のSL。発達弱度の細粒状構造。ち密度15で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.3。調査時の湿り半湿。境界漸変。Ta-c <sub>1</sub> 層のA層。
第3層	35～50cm	腐植を含む褐(7.5YR4/6)のLS。単粒状。ち密度14で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.5。調査時の湿り半湿。境界明瞭。Ta-c <sub>1</sub> 層のC層。
第4層	50～65cm	腐植あり褐灰(10YR4/2)のSiC。発達強度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度23で中。pH(H <sub>2</sub> O)6.0。調査時の湿り半湿。境界漸変。
第5層	65cm～	腐植を欠く灰橙(10YR6/3)のSiC。発達中度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度21で中。pH(H <sub>2</sub> O)6.1。調査時の湿り半湿。第4～第5層は水積(可成堆積)

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 %	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
10-1	0～20	2.3	60.8	19.1	11.4	8.7	SL	1.38	0.16	9	2.40
2	20～35	5.8	44.5	24.0	18.9	12.6	SL	4.47	0.53	9	7.71
3	35～50	4.1	71.8	15.4	8.6	4.2	LS	2.03	0.22	9	3.59
4	50～65	4.1	8.7	13.9	46.3	31.1	SiC	0.97	0.13	8	1.67
5	65～	4.4	1.6	25.1	45.7	27.6	SiC				

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
10-1	6.15	4.75	0.60	10.2	6.2	1.4	0.5	59.8	557	14.7
2	6.25	5.15	0.30	24.8	14.5	2.5	0.3	58.4	1,905	0.4
3	6.45	5.25	0.30	13.0	5.9	1.4	0.1	45.3	1,365	—
4	6.0	4.75	0.30	20.9	13.9	4.9	1.6	66.8	945	tr
5	6.05	4.45	0.60	20.2	13.3	6.6	1.6	65.3	924	tr

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては高丘統がある。火山灰の T a - c<sub>1</sub> 層の下層が高丘統は T a - d<sub>1</sub>、T a - d<sub>2</sub> 層が累積し、本統は河成堆積物が堆積している。

A-3 母材 非固結火成岩 / 非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積 (火山性) / 水積 (河成堆積)

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温 7℃、年平均雨量 1,027mm、春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く、冬季は積雪少なく土壌は 70mm 内外まで凍結する。

D 植生および利用状態

植林地、山林が多く畑は小面積点在している。畑は主として稲作農家の自給畑に利用されている。

E 農業上の留意事項

下層の河成堆積物は土性細かく塩基も多い。従つて火山灰層と河成堆積物層との混層が望ましい。混層の場合堆肥の施用、磷酸の増投が必要である。

F 分布 北海道勇払郡厚真町上幌内

調査および記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)  
年月日 昭和 42 年 3 月

上 幌 内

示性分級式 (畑)

	土 壤	表 土	表 耕	土 質	自 然	養 分	置 換	障 害	災 害	傾 倒	侵 蝕
	効 率	土 産	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質
	力 可 能 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級	の 調 節 性 厚 等 級
	深 含 量	深 含 量	深 含 量	深 含 量	深 含 量	深 含 量	深 含 量	深 含 量	深 含 量	深 含 量	深 含 量
	易 湿 度	易 湿 度	易 湿 度	易 湿 度	易 湿 度	易 湿 度	易 湿 度	易 湿 度	易 湿 度	易 湿 度	易 湿 度
	力 態 量	力 態 量	力 態 量	力 態 量	力 態 量	力 態 量	力 態 量	力 態 量	力 態 量	力 態 量	力 態 量
	素 質 度	素 質 度	素 質 度	素 質 度	素 質 度	素 質 度	素 質 度	素 質 度	素 質 度	素 質 度	素 質 度
	性 質 度	性 質 度	性 質 度	性 質 度	性 質 度	性 質 度	性 質 度	性 質 度	性 質 度	性 質 度	性 質 度
	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度
II	tdgp	w	f	n	i	a	s	e			
	I I I I 1 1 (2)	I 1 1 1	II 2 1 1	II 2 1 1 1 2 1	I 1 1	I 1 1	II 2	--	I 1 2 2		
	簡略分級式 II f n s										

### A 土壌区の特徴

この土壌区は上幌内統に属する。T a - a 層、T a - c<sub>1</sub>層、河成堆積の累積するところである。表土の厚さは15~20cmで、有効土層は1m以上で深い。粗粒質で粘着性なく耕起、砕土は容易である。保水性は中庸で透水性も大きく、過干、過湿のおそれはない。保肥力中庸、固定力小さく自然肥沃度は中位である。作土は酸性はほぼ中性で塩基も多い。障害性はない。地形はほぼ平坦で侵蝕は認められない。

### B 植生および利用状況

大部分山林、植林地になつており、耕地は稲作農家の自給畑に利用されているに過ぎない。

### C 地力保全上の問題点

2、3層は磷酸吸収係数が強く磷酸の肥効が高い。また堆肥の施用を要する。下層の河成堆積物は土性細かく塩基も多い。従つて火山灰層と河成堆積物層との混層が望ましい。

### D 分 布

北海道勇払郡厚真町字上幌内  
 記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)  
 年 月 日 昭和42年3月

## 静 川 統

### (1) 土壌統の概説

#### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層の厚さは15~30cmで腐植含量は4%内外、土性はLS及びS、色は10YRで彩度2~3、明度1~3、未風化小半角礫(軽石)を含む、単粒状及び一部発達弱度の細粒状構造、ち密度疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.6~6.6、下層との境界は平坦明瞭。本層はT a - a層及びT a - b層の一部を混合。

第2層は厚さ70~120cmで腐植を欠く土性はS、色は10YRで彩度1~2、明度7~8、未風化小半角礫(軽石)に頗る富む~礫層、単粒状でち密度中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5~6.8、酸化沈積物を含む~富む。地下水位15~80cm、本層はT a - b層。

### 代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道苫小牧市勇払 試坑No.67

第1層	0~27cm	腐植を含む黒褐(10YR2/3)のLS(客土混合)、未風化小半角礫(軽石)を含む、単粒状及び一部発達弱度の細粒状構造、ち密度疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.6、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。T a - a層及び一部T a - b層混合。
第2層	27~47cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)で未風化小半角礫(軽石)の礫層、単粒状でち密度中、pH(H <sub>2</sub> O)6.8、調査時の湿り半乾、境界判然。
第3層	47~62cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR8/1)のS、未風化小半角礫(軽石)に頗る富む。単粒状でpH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り湿、境界判然。
第4層	62~80cm	腐植を欠く黄褐(10YR5/8)で未風化小半角礫(軽石)の礫層、単粒状で、酸化沈積物に富む、調査時の湿り多湿、湧水著しい。以下130cmまでT a - b層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~27	3.3	67.3	20.5	9.2	3.0	LS	2.1	2.10	0.29	7	3.6
2	27~47	0.9	73.1	18.7	7.3	0.9	S	27	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.6	4.9	0.50	6.4	2.55	0.43		39.8	429	3.9
2	6.8	5.2	0.13	2.0	0.86	0.47		43.0	225	2.2

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては柏原、厚真統がある。柏原統、厚真統は地下水位が低く酸化沈積物がないことにより区分される。

A-3 母 材 非固結火成岩（軽石）

A-4 堆積様式 風積（火山性）

B 地 形 平坦な低地

C 気 候

年平均気温7℃、年平均雨量1,207mm、春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続ぎ、冬季は積雪少なく土壌は70mm内外凍結する。

D 植生および利用状況

開拓地として開かれたところが多く、殆んどが草地であり、燕麦、デントコンが栽培されている。また一部は原野となつているところもある。

E 農業上の留意事項

河川の改修により水位はかなり低下したが、現在明渠などの排水溝は側壁がくづれやすく浅くなりかつ雑草が自生し排水状態が不良となつているところが多い。更に改修により水位の低下を要す。また肥料の流亡多く遅効性肥料の利用、堆肥の施用に留意すべきである。開拓地では客土されたがさらに客土により肥沃な作土の造成を要する。

F 分 布 北海道勇払郡厚真町浜厚真、苫小牧市勇払、弁天、静川

調査及び記載責任者 後 藤 計 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和42年3月



(2) 土壌区別説明

静 川 - 1

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効	土	土	表	表	透	保	湿	固	土	置	有
生	土	土	土	土	土	然	層	換	"	"	効	害
産	土	土	土	土	土	の	の	性	態	量	物	的
力	の	の	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩
可	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩	石
能	の	の	の	の	の	沃	沃	沃	沃	沃	沃	基
性	厚	難	難	難	難	着	着	着	着	着	着	基
等	深	含	含	含	含	硬	硬	硬	硬	硬	硬	基
級	さ	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性	性
	さ	易	易	易	易	湿	湿	湿	湿	湿	湿	湿
	さ	量	量	量	量	度	度	度	度	度	度	度
	さ	量	量	量	量	力	力	力	力	力	力	力
	さ	量	量	量	量	否	否	否	否	否	否	否
	さ	量	量	量	量	素	素	素	素	素	素	素
	さ	量	量	量	量	度	度	度	度	度	度	度
	さ	量	量	量	量	無	無	無	無	無	無	無
	さ	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性	性
	さ	量	量	量	量	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜
	さ	量	量	量	量	向	向	向	向	向	向	向
	さ	量	量	量	量	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜
	さ	量	量	量	量	度	度	度	度	度	度	度
	さ	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性	性
	さ	量	量	量	量	性	性	性	性	性	性	性

Ⅳ	t	d	g	p		w		f		n		i	a	s	e
Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ

簡略分級式 ⅣwⅢdfnⅡtg

A 土壌区の特徴

この土壌区は静川統に属する。表土の厚さは15~30cmでやや深い有効土壌は30cm内外で浅い。表土は礫を含み、砂質で粘着性なく農具の使用は容易である。透水性は大きく保水性は中~やや小さいが水位が高く過湿のおそれが基だしい。保肥力は弱く固定力は小さい。塩基状態はやや良いが自然肥沃度は低い。各養分に乏しいが酸性は弱い。障害性が存在する。地形は平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状態

開拓地として開かれたところで殆んど草地であり、燕麦、デントコンが栽培されている。また静川では原野となつているところが多い。

C 地力保全上の問題点

河川の改修により水位はかなり低下したが、現在排水溝は側壁がくずれやすく浅くなり、かつ雑草が繁茂し排水状態が不良となつてゐるところが多い。更に改修により水位の低下を要す。また肥料の流亡が多く遅効性肥料の利用、堆肥の施用に留意すべきである。客土されたところが多いが未施行地区の客土及び再客土により肥沃な作土の造成を要する。草地には尿撒布が効果的である。

D 分布

北海道勇払郡厚真町上厚真、苫小牧市勇払、弁天、静川  
記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)  
年月日 昭和42年3月

示性分級式(畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効	土	土	土	透	保	置	有	増	自	耐
生	土	土	土	地	然	層	換	効	害	冠	耐
産	土	土	土	の		の	性	態	理	す	
力	の	の	の	風		の	量	物	的	水	風
可	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	質	害	蝕
能	の	磧	粘	土	沃	基	灰	土	障	害	蝕
性	厚	含	難	土	乾	沃	状	豊	有	危	蝕
等	深			着	硬				害	險	蝕
級	さ	量	易	性	性	度	力	力	素	無	蝕
	さ	量	易	性	性	度	力	力	素	無	蝕
				湿	度	否	否	否	性	性	蝕

Ⅲ	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ

簡略分級式 Ⅲ t d w f n i Ⅱ g

A 土壤区の特徴

この土壤区は静川統に属する。表土の厚さは7~18cmで一般に薄い。有効土層は30cm内外で浅い。表土は磧を含み、砂質で粘着性はなく耕起、碎土は容易である。透水性は大きく保水性は中~やや小さいが、地下水位が高く過湿のおそれが多い。保肥力は中、固定力は小さいが塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。各養分に乏しいが酸性は弱い。障害が存在する。地形は平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

開拓地として開かれたところで殆んど草地であり、燕麦、デントコンが栽培されている。また原野となつているところが多い。

C 地力保全上の問題点

河川の改修により水位は低下している。現在排水溝は漸次埋没し易くなり、かつ雑草が繁茂し排水状態が漸次不良となつてきている。更に排水溝の改修による水位の低下を要す。また肥料の流亡が多く遅効性肥料の利用、堆肥の施用、さらに客土されたところには再客土、未施行地には客土を要す。草地には尿撒布が効果的である。

D 分布

北海道厚真町厚真、苫小牧市勇払、弁天、静川  
 記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）  
 年月日 昭和42年3月

弁 天 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ6~18cmで腐植含量14%内外、土性はS、色は10YRで彩度3、明度8、泥炭を含む。単粒状で一部発達弱度の細粒構造も混在、ち密度は疎、酸化沈積物を含む~富む<sub>o</sub>pH(H<sub>2</sub>O)

5.1、下層との境界は明瞭。T a - a 層。

第2層は厚さ2~4cmでヨシからなる低位泥炭、分解不良、色は5YR2/4、本層は作土(第1層)に混合されている場合もある。

第3層は厚さ3~5cmで腐植を欠く土性はS、色は10YRで彩度2~3、明度7~8、単粒状でち密度疎、酸化沈積物を含む場合が多い。下層との境界は明瞭。本層は軽石からなる砂丘砂層。

第4層は厚さ1~3cmでヨシからなる低位泥炭、分解不良、色は5YR2/4。

第5層は厚さ70~140cmで腐植を欠き、土性はS、未風化小半角礫(軽石)に頗る富む~礫層。色は10YRで彩度3~6、明度6~8。本層はT a - b層。湧水著しく地下水水位は20~60cm。

### 代表的断面形態

(所在地) 北海道苫小牧市弁天 試坑No.4

第1層	0~9cm	腐植に頗る富む淡黄橙(10YR8/3)のS、単粒状で一部発達弱度の細粒状構造、分解良好な泥炭に富む、ち密度は疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.1、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。
第2層	9~14cm	腐植を欠く淡黄橙(10YR8/3)のS、単粒状でち密度中、酸化沈積物に頗る富む、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭。第1~第2層はT a - a層。
第3層	14~16cm	暗赤褐(5YR2/4)のヨシからなる低位泥炭、分解やゝ不良。
第4層	16~20cm	腐植を欠く淡黄橙(10YR8/3)のS、単粒状でち密度中、調査時の湿り湿。境界平坦明瞭。本層は軽石からなる砂丘砂層。
第5層	20~21cm	暗赤褐(5YR2/4)のヨシからなる低位泥炭、分解やゝ不良、第3~第5層の混合した土壌のpH(H <sub>2</sub> O)5.8。
第6層	21~24cm	腐植を欠く灰橙(7.5YR6/4)のS、単粒状で未風化小半角礫(軽石)に頗る富む、ち密度は中、調査時の湿り湿。泥炭を含む、境界判然。
第7層	24~100cm	腐植を欠く淡黄橙(10YR8/4)で未風化小半角礫(軽石)の礫層、調査時の湿り多湿で50cm内外に地下水水位がある。

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~14	2.5	76.8	15.7	4.6	2.9	S	2.3	7.27	0.70	10	14.1
2	16~21	3.6	71.8	15.7	6.3	6.2	LS	-	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度Y <sub>1</sub>	塩基置換容 量me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.1	4.3	3.56	18.3	13.12	2.94	-	7.17	5.66	-
2	5.8	5.0	0.30	22.4	2.3	0.4	0.4	10.2	7.67	-

#### A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては静川統がある。静川統は腐植含量少なく、表土及びT a - a層、T a - b層間に泥炭を狭在しないので本統と区分することができる。

#### A-3 母 材 非固結火成岩(軽石)

#### A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温 7℃、年平均雨量 1,207mm で春季～夏季に濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く、冬季は積雪量少なく土壌は 70cm 内外凍結する。

D 植生および利用状況

開拓地として開かれたところで、殆んどが草地であり、その他燕麦、デントコンが栽培されている。また一部原野となつているところも多い。

E 農業上の留意事項

河川の改修により水位はかなり低下したが、現在明渠など排水溝は側壁がくづれやすく、溝が浅くなりかつ雑草が繁茂し排水状態が不良となつているところが多い。更に改修により水位の低下を要する。また肥料の流亡多く遅効性肥料の利用、堆肥の施用に留意すべきである。開拓地では客土が行なわれたがさらに再客土が望ましく、客土未施行地では客土を実施し肥沃な作土の造成を要する。

F 分布 北海道勇払郡厚真町上厚真、苫小牧市勇払、弁天、静川

調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和 42 年 3 月

(2) 土壌区別説明

弁 天

示性分級式(畑)

土壌	表土	表耕	表土	表土	表土	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	障	災	傾	自	傾	人	侵	耐		
生	土	土	土	土	土	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風									
産	土	土	土	土	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	含	難	着	乾	沃	状	豊	含	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	性	性	性	性	性	性
等	深	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易
級	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ	さ
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																
	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	
	簡略分級式 N w Ⅲ t d i Ⅱ f n																										

A 土壌区の特徴

この土壌区は弁天統に属する。表土の厚さは 6～18cm で一般に薄く、有効土層は 25cm 内外で浅い。表土は礫はないが、砂質で粘着性なく耕起、碎土は容易である。透水性は大きく、保水性は中庸～やゝ小さいが地下水位が高く過湿のおそれが甚だしい。保肥力は中庸、固定力小さく塩基状態は良好であるが自然肥沃度は中位、石灰、苦土は富むが加里、磷酸に乏しい、やゝ酸性を呈す、物理的障害がある。地形平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

開拓地として開かれたところで、殆んどが草地であり、その他燕麦、デントコンが栽培されている。

また一部原野となつているところも多い。

E 地力保全上の問題点

河川の改修などにより水位はかなり低下したが、現在明渠など排水溝は側壁がくづれやすく、溝が浅くなり、かつ雑草が繁茂し排水状態が不良となつているところが多い。更に改修により水位の低下を要する。開拓地では客土が行なわれたがさらに再客土が望ましく、客土未施行地では客土の実施を要する。

D 分布 北海道勇払郡厚真町上厚真、軽舞、苫小牧市勇払、弁天、静川

記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和42年3月

富 野 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さは12~20cmで腐植含量2~3%、土性はSLでLの場合もある。色は10YRで彩度2~3、明度4前後。未風化小半角礫を含む。発達弱度の細粒状構造、ち密度6~10で疎。pH(H<sub>2</sub>O)5.3~6.0。下層との境界は明瞭。Ta-a層および河成堆積物(植壤土~壤土)が混合。

第2層は厚さ4~5cmで腐植含量2%以下、土性はSである。色は10YRで彩度4内外、明度6~8。1mm内外の浮石砂。単粒状。ち密度12で疎。下層との境界は明瞭。本層は砂丘浮石砂層。

第3層は厚さ4~6cmで、腐植含量2%以下、土性はSである。色は10YRで彩度3、明度6。未風化小半角礫を含む。単粒状。酸化沈積物に富む。pH(H<sub>2</sub>O)6.0~6.7。下層との境界は漸変。

第4層は厚さ70~90cmで未風化小半角礫層(軽石)。酸化沈積物あり。pH(H<sub>2</sub>O)は6.0~6.9。第3~第4層はTa-b層。地下水位は40~70cmで達する。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町富野(普通畑)

第1層	0~24cm	腐植を含む灰黄褐(10YR 4/3)のSL。発達弱度の細粒状構造、未風化小半角礫を含む。ち密度6で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.8。調査時の湿り半湿。境界明瞭。Ta-a層と河成堆積物と混合。
第2層	0~29cm	腐植を欠く淡黄橙(10YR 8/4)のS。単粒状。ち密度12で疎。調査時の湿り半湿。境界明瞭。砂丘浮石砂層。
第3層	29cm~	2層に区分され、29~33cmは灰黄橙(10YR 6/3)のS。ち密度10で疎。未風化小半角礫軽石を含む。酸化沈積物に富む。33cm~は灰黄橙(10YR 6/3)の未風化小半角礫層(軽石)。酸化沈積物を含む。地下水位50cm。Ta-b層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
16-1	0~24	2.2	58.2	12.4	14.1	15.3	SL	1.17	0.15	8	20.1
2	24~33	1.1	77.9	18.0	1.3	2.8	S	—	—	—	—
3	33~	0.9	97.1	1.6	0.2	1.1	S	—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
16-1	5.75	4.5	1.25	10.2	5.5	2.7	0.3	5.2.9	536	3.3
2	6.45	5.45	0	3.4	1.0	0.3	0.1	3.0.3	327	6.5
3	6.7	6.0	0	2.4	—	0.3	0.0	—	81	5.2

### A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統としては静川統、弁天統がある。静川統、弁天統は何れも表層から火山灰層が累積するところであり、本統は作土に河川の氾濫土が僅かに混合していることに区分される。

A-3 母材 非固結火成岩、非固結水成岩混合

A-4 堆積様式 風積（火山性）〔水積（河成堆積）〕

### B 地形

河川流域の平坦な低地

### C 気候

年平均気温7℃、年平均雨量1,207mm、春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続き冬季は積雪量少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

### D 植生および利用状況

一部原野となつているところもあるが水田、畑に利用されている。水田では客土を実施しているがやはり漏水が著しい。畑は稲作農家の自給畑で馬鈴薯、玉蜀黍、野菜類が多い。

### E 農業上の留意事項

水田にあつては先ず客土を要する。粘質な土壌の客入を行なっているが、まだ十分ではなく今後さらに客土を行なうべきである。また造田も盛んに行なわれているが客土を実施した場合、堆肥の施用、磷酸の増施を要する。また地下水位が高く明渠、暗渠など排水工事の計画的な施行が必要である。畑においても排水、客土を要する。

F 分布 北海道勇払郡厚真町上厚真、富野、共栄

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日

昭和42年3月

## 富 野

### 示性分級式（畑）

<p style="text-align: center;">           土 表 有 表 耕 土 自 養 障 災 傾 侵            壤 効 表 表 透 保 湿 保 固 土 置 有 微 酸 有 物 増 地 自 傾 人 侵 耐 耐            生 土 土 耘 土 土 の 地 然 層 分 換 " " 効 害 理 冠 斜 為 水 風            産 力 の の の 乾 的 水 潤 肥 肥 定 塩 的 害 質 害 危 傾 傾 蝕 蝕            可 能 の 礫 粘 土 の 沃 沃 基 灰 土 里 酸 要 障 危 危 傾 傾 蝕 蝕            性 厚 深 含 難 土 着 硬 沃 沃 状 豐 含 " " 有 害 險 險 方 蝕 蝕            等 級 さ さ 量 易 性 性 さ 性 性 度 力 力 態 量 " " 素 度 無 性 性 度 度 斜 向 斜 度 性 性            級 さ さ 量 易 性 性 さ 性 性 度 力 力 態 量 " " 素 度 無 性 性 度 度 斜 向 斜 度 性 性         </p>
<p> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">III</span> t d g p     w     f     n     i     a     s     e            II III I I 1 1 1 III 1 1 3 II 2 1 1 II 1 1 1 2 2 1 III 1 3 I 1 1 I 1 -- I 1 1 1         </p>
<p style="text-align: center;">簡略分級式 III d w i II t f n</p>

A 土壌区の特徴

この土壌区は富野統に属する。表土の厚さは20～25cmで、有効土層は35cm内外と浅い。表土は未風化小半角礫（軽石）を含み、粗粒質で粘着性なく耕起、碎土は容易である。保水性は中庸で透水性は大きい。地下水位が高く土壌は過湿のおそれが多い。保肥力は小～中庸で固定力は小さく自然肥沃度は中位である。作土は酸性弱く養分もやや多いが磷酸にやや乏しい。物理的障害が大きい。平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

一部原野となつているところもあるが、大部分は水田、畑に利用されている。畑は稲作農家の自給畑で馬鈴薯、野菜、玉蜀黍などが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

水位が高く明渠、暗渠など排水工事の計画的な施行が必要である。また客土も必要である。客土を行なつた場合炭カル、磷酸など土壌改良資材の投入を要する。

D 分布 北海道勇払郡厚真町上厚真、富野、共栄

記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月

豊 川 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12～22cmで腐植含量1～2%、土性はCLでCの場合もある。色は10YRで彩度3～4、明度5～6。発達弱度の細粒状構造で密度は8～12で疎。pH(H<sub>2</sub>O)は5.4～6.0。下層との境界は明瞭。水積（河成堆積）

第2層は厚さ5～10cmで腐植含量を欠き、土性はSLでLの場合もある。色は10YRで彩度3、明度4～5。発達弱度の細粒状構造で密度は10～14で疎。pH(H<sub>2</sub>O)は5.6～6.4。下層との境界は明瞭。Ta-a層、水積（河成堆積）の混合層

第3層は厚さ70～100cmで腐植を欠き、土性はSである。色は10YRで彩度2～3、明度7～8。単粒状。未風化小半角礫（軽石）に頗る富む或いは礫層。pH(H<sub>2</sub>O)は6.2～6.9。Ta-b層。

代表的断面形態

（所在地） 北海道勇払郡厚真町豊川（普通畑）

第1層	0～20cm	腐植あり灰黄橙（10YR5/4）のCL。発達中度の細粒状構造。ち密度8で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.6。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第2層	20～26cm	腐植を欠く灰黄褐（10YR5/3）のSL。発達弱度の細粒状構造。ち密度12で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.2。調査時の湿り半湿。境界明瞭。Ta-a層、水積（河成堆積）の混合層。
第3層	26cm～	腐植を欠き、5層に細区分される。26～42cmは灰黄橙（10YR7/3）で未風化小半角礫（軽石：粒形2～3mm）に富む砂土。42～43cmは灰黄橙（10YR7/3）で未風化小半角礫（軽石：3～5mm）に富む砂土。43～57cmは淡黄橙（10YR8/3）で未風化小半角礫（軽石：2～4mm）に頗る富む砂土。57～65cmは灰黄橙（10YR7/3）で未風化小半角礫（軽石：2～4mm）に富む砂土。65cm～は淡黄褐灰（10YR8/2）

で未風化小半角礫層（軽石：2～20mm）。調査時の湿り半湿。T a - b 層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
12-1	0～20	3.1	41.6	13.0	23.6	21.8	CL	1.06	0.14	8	1.83
2	20～26	1.9	61.3	16.3	12.2	10.2	SL	0.69	0.11	6	1.19
3	26～65	1.0	94.2	2.7	0.8	2.3	S	—	—	—	—

層位	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容 量 me/100g	置換性 塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
12-1	5.55	4.45	1.25	14.1	8.6	3.1	1.0	61.4	666	14.9
2	6.2	5.05	0.30	7.1	4.8	2.0	0.2	66.1	510	9.0
3	6.85	6.25	0	1.7	—	0.7	0.0	—	101	3.2

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては富野統がある。富野統は作土の土性がやゝ粗いこと、下層に酸化沈積物が存在することにより区分される。

A-3 母材 非固結水成岩/非固結火成岩

A-4 堆積様式 水積(可成堆積)/風積(火山性)

B 地形 河川流域の平坦な低地

C 気候

年平均気温7℃、年平均雨量1207mm、春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く、冬季は積雪量少なく土壌は70mm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

大部分が水田、畑に利用され、耕地のうち殆んどが水田に利用され、畑は稲作農家の自給畑となっている。

E 農業上の留意事項

有効土層が浅い。堆肥の施用、遅効性肥料の併用が必要である。

F 分布 北海道勇払郡厚真町富野、上厚真、共栄、豊川

調査および記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月





第4層は半風化小円礫層(泥岩)。なお本層を欠く場合もある。

代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町上幌内(普通畑)

第1層	0~25cm	腐植あり黄褐灰(10YR4/2)のSL。発達弱度の細粒状構造。半風化小円礫(泥岩)に富む。ち密度6で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.8。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第2層	25~46cm	腐植を欠く黄褐灰(10YR6/2)のLS。単粒状。ち密度9で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.5。調査時の湿り半湿。境界明瞭。水積浮石砂。
第3層	46~63cm	腐植を欠く黄褐灰(10YR6/1)のCL、Sの互層。ち密度9で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.3。調査時の湿り半湿。境界明瞭。Sは水積浮石砂。
第4層	63cm~	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のS。単粒状。ち密度6で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.7。調査時の湿り半湿。水積浮石砂。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
21-1	0~25	2.0	65.8	16.0	9.7	8.5	SL	1.14	0.16	7	1.96
2	25~46	1.9	51.7	37.0	6.1	5.2	LS	0.30	0.08	4	0.48
3	46~63	2.4	43.9	35.9	12.8	7.4	SL	0.33	0.06	6	0.56
4	63~	1.4	90.7	6.8	0.6	1.9	S	-	-	-	-

層位	pH		置換酸 度Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷 酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
21-1	5.75	4.65	0.60	9.3	5.1	1.0	0.4	5.48	3.47	2.24
2	6.45	4.85	0.30	7.6	4.1	2.7	0.6	5.26	3.27	5.3
3	6.25	4.95	0.30	9.2	4.8	2.1	0.6	5.10	3.51	6.2
4	6.65	5.75	0	2.0	0.7	1.0	-	2.35	1.01	4.8

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては豊川統、幌内統がある。豊川統、幌内統は何れも降灰火山砂礫層が存在するので本統と区分することができる。

A-3 母材 非固結水成岩(泥岩および軽石)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 河川流域の平坦な低地

C 気候

年平均気温7℃、年平均雨量1,207mm、春季~夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く、冬季は積雪量少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

低地は狭長で河川が蛇行し耕地は少ない。耕地は殆んどが水田に利用されている。

E 農業上の留意事項

部分的に滲透水により湿性を呈するところがある。かゝるところは河川の改修、暗渠など基盤整備を要す。下層は土性粗く堆肥の施用を要す。

F 分布 北海道勇払郡厚真町上幌内、幌里、軽舞  
調査および記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)  
年 月 日 昭和42年3月

幌 内

示性分級式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵															
壤	効	効	土	土	土	透	保	固	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐					
生	土	土	耘	土	土	然	層	換	効	害	理	冠	す													
産	土	土	の	風			の	性	態	量	物	的	水	り				然	為	水	風					
力	の	の	の	乾	の		水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	の		蝕				
可	の	層	の	粘	土		沃	状	豊	含	要	の	基	灰	土	里	酸	の	危	危		蝕				
能	の	礫	粘	土	の	乾	沃	状	豊	含	要	の	基	灰	土	里	酸	の	危	危		蝕				
性	厚	含	難	着	硬		沃	状	豊	含	要	の	基	灰	土	里	酸	の	危	危		蝕				
等	深		性	性	さ	湿	性	性	度	力	態	量	否	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	
級	さ	量	易	性	性	さ	湿	性	性	度	力	態	量	否	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性

Ⅱ t d g p    w        f        n                    i   a   s       e  
 Ⅱ I Ⅱ I 1 1 1 I 1 1 1 Ⅱ 2 1 1 Ⅱ 1 2 1 1 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 -- I 1 1 1

簡略分級式 Ⅱ t g f n

A 土壌区の特徴

この土壌区は幌内統に属する。表土の厚さは20cm内外、有効土層は1m以上で深い。作土は中粒質で粘着性弱く耕起、碎土は容易である。保水性は中庸で、透水性は大きいが過干、過湿のおそれはない。保肥力はやゝ小さく、固定力小さいが塩基状態は良く自然肥沃度は中位である。酸性は弱く養分は富んでいる。物理的障害はない。平坦で侵蝕は認められない。

B 植生および利用状況

狭長な低地で河川は蛇行し耕地は少ない。耕地はほとんど水田に利用されている。

C 地力保全上の問題点

土性が粗く、透水性の大きいところであり、堆厩肥など有機物の増施が必要である。また遅効性肥料の併用も考慮すべきである。部分的に滲透水により過湿となつていところがあり暗渠を要する。

D 分布 北海道勇払郡厚真町上幌内  
記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)  
年 月 日 昭和42年3月

幌 里 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~40cmで腐植含量1~2%、土性はSLである。色は10YRで彩度2、明度3。発達弱度の細粒状構造。ち密度4~9で疎。pH(H<sub>2</sub>O)5.3~6.0。下層との境界明瞭。  
 第2層は厚さ15~50cmで腐植を欠き土性はSである。色は10YRで彩度2~3、明度7。未

風化小半角礫層（軽石）。pH (H<sub>2</sub>O) 6.0~6.8。下層との境界明瞭。Ta-b層。

第3層は厚さ20~40cmで腐植を欠き、土性はLでSLまたはSの場合がある。色は2.5Y~10YRで彩度2~3、明度6~8。均質連結状で細孔に富む。酸化沈積物に富む。ち密度8で疎。pH (H<sub>2</sub>O) 5.8~6.2。湧水する場合が多い。

代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町上幌内

第1層	0~20cm	腐植あり黒褐(10YR3/2)のSL。発達弱度の細粒状構造。ち密度4で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.7。調査時の湿り半湿。境界判然。
第2層	20~40cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR7/3)のLS。単粒状。ち密度9で疎。酸化沈積物を含む。pH(H <sub>2</sub> O)6.6。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第3層	40~65cm	腐植を欠く淡黄橙(10YR8/3)のS。単粒状。未風化小半角礫(軽石)に頗る富む。ち密度10で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.9。調査時の湿り半湿。境界明瞭。Ta-b層。
第4層	65cm~	腐植を欠く黄褐灰(2.5Y6/2)のL。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。酸化沈積物に頗る富む。ち密度8で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.3。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
26-1	0~20	2.1	65.8	15.7	11.4	7.1	SL	0.88	0.12	7	15.1
2	20~40	1.4	91.8	1.9	0.9	5.4	LS	—	—	—	—
3	40~65	1.4	93.2	1.8	1.7	3.3	S	—	—	—	—
4	65~	3.1	7.3	45.1	32.5	17.1	L	0.62	0.10	6	0.89

層位	pH		置換酸 度Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性 塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
26-1	5.65	4.45	1.25	7.3	2.7	1.4	0.5	36.9	30.6	7.8
2	6.55	5.65	0	2.0	0.3	0.3	0.1	15.0	4.1	2.8
3	6.85	5.95	0	1.7	—	0.3	0.0	—	0	3.7
4	6.25	4.85	0.30	17.2	11.7	4.5	1.8	68.0	62.4	2.9

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては幌内統、豊川統がある。幌内統は酸化沈積物がなく、豊川統は上層の河成堆積層が薄く下層の火山灰層は厚く堆積していることにより区別される。

A-3 母材 非固結水成岩(泥岩、砂岩)/非固結火成岩

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)/風積(火山性)

B 地形 小河川流域の平坦な低地

C 気候

年平均気温7℃、年平均雨量1207mm 春季~夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続き冬季は積雪量少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

小河川流域に分布するので狭長で耕地は点在分布する。耕地は主として水田に利用されている。

E 農業上の留意事項

河川が蛇行し河床が高く湿性を呈する。河川の改修、暗渠の施行などの基盤整備を要する。土性は粗粒質で塩基に乏しい。堆厩肥など有機物の富化を図ることが必要である。

F 分布 北海道勇払郡厚真町上幌内、軽舞、幌里、高丘

調査および記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和42年3月

幌 里

示性分級式(畑)

土 壤	表土	有効土層	表土	表土	表土	土	自然	透湿度	保固力	自肥	養分	置換	微酸	障害	災	傾	傾	侵入	耐	
効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効
産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産
力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力	力
可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可	可
能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能
性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚	厚
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級

III t d g p      w      f      n                              i      a      s      e  
II III I I 1 1 1 III 1 1 3 II 2 1 2 II 3 1 1 2 1 1 III 1 3 I 1 1 I 1 — I 1 1 1  
簡略分級式 III d w i II t f n

A 土壌区の特徴

この土壌区は幌里統に属する。表土の厚さは20cm内外で、有効土層は40cmで浅い。中粒質で粘着性弱く耕起、砕土は容易である。保水性は中庸で透水層は大きいが地下水位高く過湿のおそれが多い。保肥力は中庸、固定力は小さく自然肥沃度は中位である。酸性は弱く養分はやゝ乏しい。物理的障害がある。平坦で侵蝕はない。

B 植生および利用状況

小河川流域に分布するので狭長で耕地は点在分布する。耕地は主として水田に利用されている。畑は燕麥、馬鈴薯、玉蜀黍など稲作農家の自給畑となっている。

C 地力保全上の問題点

河川の改修、暗渠により地下水位の低下を図るべきである。また堆厩肥など有機物の富化を要する。

D 分布 北海道勇払郡厚真町上幌内、軽舞、幌里、高丘

記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和42年3月

ウ ト ナ イ ト 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は13～25cmでヨシ、スゲからなる低位泥炭で、色は10YR、彩度1～2、明度3、分解は不良、pH(H<sub>2</sub>O)4.7～5.8、下層との境界明瞭。

第2層は腐植を欠き、土性はS、色は10YRで彩度2、明度7～8、未風化小半角礫(軽石)を含む～富む、pH(H<sub>2</sub>O)4.8～5.8、下層との境界明瞭。本層はTa-a層。

第3層は腐植を欠き、土性は未風化小半角礫(軽石)の礫層～礫に頗る富む、本層はTa-b層。地下水位は15～30cm内外が多い。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道苫小牧市勇払

第1層	0～13cm	黒褐(10YR3/1)のヨシ、スゲからなる低位泥炭、分解は不良、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り多湿 下層境界明瞭。
第2層	13～18cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR8/2)のS、未風化小半角礫(軽石)を含む。pH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り多湿、境界明瞭。本層はTa-a層。
第3層	18～20cm	黒褐(10YR3/1)のヨシからなる低位泥炭、分解は不良、湿り多湿、境界明瞭
第4層	20～25cm	腐植を欠く淡黄橙(10YR8/3)のS、調査時の湿り多湿。
第5層	25～100cm	未風化小半角礫(軽石)の礫層及び頗る富む、第4～第5層はTa-b層。湧水著しく地下水位23cm

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0～13	4.5	—	—	—	—	ヨシ	2.1	—	—	—	22.1

層位	pH		置換酸 度Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.6	4.5	1.2	22.6	5.39	0.29	—	23.8	6.42	1.0

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては弁天統、静川統がある。弁天統は泥炭層が2～4cmの薄層であり、静川統は泥炭層がないのでそれぞれ区分することができる。

A-3 母材 ヨシ/非固結火成岩(軽石)

A-4 堆積様式 集積(低位泥炭)/風積(火山性)

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温7℃、年平均雨量1,207mm、春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が統

き冬季は積雪少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

明渠、暗渠の施行により耕地化が進んでいるところで、一部水田にも利用され今後造田化が急速に進められている。しかし、排水工事のないところは地下水位甚だ高く原野となつていところも少なくない。

E 農業上の問題点

排水工事全域完成が望まれる。水田では客土による漏水の防止が必要である。客土施行の場合、硅カル、燐酸の増施を要する。畑においても客土、炭カルによる酸性矯正、燐酸による増施を要する。

F 分布

北海道勇払郡厚真町鯉沼、軽舞、苫小牧市沼ノ端、植苗、静川、勇払  
調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）  
年 月 日 昭和42年3月

ウトナイト

示性分級式（畑）

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
壤	効	土	土	透	保	固	置	有	物	増	自	傾	人	侵	耐																			
生	土	土	土	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水																			
産	土	土	地	の	の	の	性	態	量	物	的	水	り	然	為	風																		
力	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	害	の	の	傾	傾	蝕	蝕										
可	の	の	粘	基	灰	土	里	酸	要	の	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕																	
能	の	礫	粘	沃	状	豊	含	素	度	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性															
性	厚	深	含	難	着	硬	性	性	さ	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性							
等	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性						
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性						
	td	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
	III	III	I	I	1	1	1	IV	1	2	3	III	2	1	3	III	2	3	3	3	-2	III	1	3	II	2	1	I	1	--	I	1	1	1
	簡略分級式 IVwIIItdfnIIa																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区はウトナイト統に属する。表土は10cm内外で薄く、有効土層も25cm内外で浅い、泥炭で耕起、碎土は容易である。透水性は大きく保水性中庸であるが、地下水位著しく高く過湿のおそれが甚だしい。保肥力は中庸、固定力は小さいが塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。養分は乏しく酸性は強い。物理的障害性は存在する。増水による冠水のおそれがある。侵蝕はない。

B 植生および利用状況

明渠、暗渠の施行により耕地化が進んでいる。一部水田となつており今後造田化もさらに進められている。しかし、排水工事の施工されていないところは地下水位が甚だ高く原野となつている。

C 地力保全上の問題点

全域排水工事の施工が必要である。水田では漏水が多く客土を要する。客土施行の場合は硅カル、燐酸の増施が必要である。畑も客土、炭カル、燐酸の施用などの対策が必要である。

D 分布

北海道勇払郡厚真町鯉沼、軽舞、苫小牧市沼ノ端、植苗、静川、勇払  
記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和42年3月

上 厚 真 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量2～4%、土性はCLでL、SLの場合がある。色は10YRで彩度2、明度5。発達弱度の細粒状、粒状構造。酸化沈積物あり～含む。ち密度1.4前後で疎。pH(H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界は判然。

第2層は厚さ8cm前後で腐植含量3%内外。土性はCLでL、SLの場合がある。色は10YRで彩度2、明度5。発達弱度の板状構造或いは均質連結状。酸化沈積物あり～含む。ち密度1.7前後。pH(H<sub>2</sub>O) 5.6前後。下層との境界は明瞭。すき床層。第1、第2層は客土およびTa-a層混合。

第3層は60～70cmで腐植含量2%以下、3層に細区分され、20～35cmは10YR～7.5YRで彩度6、明度4～6。細粒状。未風化小半角礫に富む。酸化沈積物に含む。ち密度8前後。pH(H<sub>2</sub>O) 6.3前後。下層との境界判然。35～44cmは5Y～10YRで彩度2、明度7～8。単粒状。未風化小半角礫に富む。ち密度1.0で疎。下層との境界は判然。44～80cmは色が5Y～10YRで採度2、明度7～8。単粒状。未風化小半角礫層。ち密度8で疎。下層との境界明瞭。本層はTa-b層。

第4層は50cm以上で腐植含量2%以下。土性はCL～C。色は10Yで彩度1、明度3。均質連結状、グライ層。水積(河成堆積)

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町清住(水田)

第1層	0～12cm	腐植を含む黄褐灰(10YR 5/2)のCL。発達弱度の細粒状、粒状構造。未風化小半角礫あり。ち密度1.4で疎。酸化沈積物を含む。pH(H <sub>2</sub> O) 5.1。調査時の湿り湿。境界平坦判然。
第2層	12～20cm	腐植を含む黄褐灰(10YR 5/2)のCL。均質連結状。未風化小半角礫あり、ち密度1.7で疎。酸化沈積物あり。pH(H <sub>2</sub> O) 5.7。調査時の湿り湿。境界平坦明瞭。
第3層	20～80cm	腐植を欠き3層に細区分される。20～35cmは褐(7.5YR 4/6)のS。単粒状。未風化小半角礫(軽石)を含む。ち密度8で疎。酸化沈積物を含む。pH(H <sub>2</sub> O) 6.3。35～44cmは淡黄灰(5Y 7/2)のS。単粒状。未風化小半角礫(軽石)に富む。ち密度1.0で疎。44～80cmは淡黄灰(5Y 7/2)の未風化小半角礫層(軽石)。ち密度8で疎。酸化沈積物を含む。調査時の湿り湿。Ta-b層。境界明瞭。
第4層	80cm～	腐植を含む黒褐(10YR 3/1)のCL。均質連結状。調査時の湿り多湿湧水。



代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~12	3.2	22.3	31.5	25.5	20.7	CL	1.94	0.22	9	3.3	5.05	4.1
2	12~20	3.2	26.4	28.8	25.1	19.7	CL	1.97	0.20	10	3.4	5.65	4.5
3	20~35	0.8	75.1	11.6	10.3	3.0	S	—	—	—	—	6.25	5.45

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30℃NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	8.12	15.3	4.3	2.8	0.6	28.1	11.71	3.85	11.71	—	9.69	1.58
2	1.25	16.3	8.2	2.8	0.4	50.3	9.61	3.41	9.61	—	10.10	2.08
3	0	2.2	0.7	0.3	0.1	31.8	—	—	—	—	2.63	—

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては共栄統、富里統、上野統などがある。共栄統は下層には酸化沈積物がなく、表土は水積（河成堆積）層であるため区分される。上野は表土は水積（河成堆積）層であり、下層の火山灰層は80~100cmで厚いため区分される。富里統は水積（河成堆積）層が30~50cmと厚く堆積しているため区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積（火山性）

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温7℃、年平均雨量1207mm、春季~夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く冬季は積雪量少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

畑を客土により最近造田したところがある。

E 農業上の留意事項

全般にまだ客土量が少なく漏水田が多い。暗渠、明渠は完成しているが耕作中は暗渠の排水をとめており客土量を増加して漏水防止を図るべきである。磷酸の肥効高く増施を要する。窒素、加里の分施を要す。区画拡大の場合は表土処理を要する。

F 分布 北海道勇払郡厚真町清住

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和42年3月

示性分級式（水田）

土壌	表土	表耕	湛	酸	土	自	養	障	災																													
生	効	土	土	土	分	遊	透	保	湿	固	土	置	有	微	酸	障	有	物	增	地																		
産	土	土	土	土	離	グ	地	然				層	換	"	"	"	"	"	"	"	冠	す																
力	土	の	の	の	性	ラ							の	性	態	量	物	的	水	り																		
可	の	層	の	乾	透	の	還	有	化	の	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	質	害	の	の										
能	の	礫	粘	土	50	高	機	鉄	化	乾															基	灰	土	里	酸	素	酸	要	の	障	危	険		
性	厚	含	難	土	着	硬	土	密	含	含	沃	状	豊	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	有	害	無	性	度	度								
等	深		性	性	性	性	量	量	量	性	性	性	度	力	態	量											素	度	無	性	度	度						
級	さ	量	易	性	性	性	湿	度	度	否																												
	t	d	g	p		l	r	w	f	n				i	a																							
<b>稀</b>	<b>Ⅳ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅳ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	
											団																											
											地																											
<b>畑</b>	<b>Ⅳ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅳ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅱ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅲ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	<b>Ⅰ</b>	

簡略分級式 ⅣdⅢlfiⅡrn

畑 ⅣdⅢt wf iⅡ n a

A 土壤区の特徴

この土壤区は上厚真統に属する。表土の厚さは12～18cmで有効土層は20～30cmで浅い。細粒質（客土）で粘着性は中庸。耕起、砕土は容易である。保水性は中庸だが透水性は大きい。易分解性有機物、酸化鉄含量中で根系障害は認められない。保肥力、固定力中であるが、塩基状態不良で自然肥沃度は低い。酸性は弱く表土の養分含量は中位。物理的障害は大きい。増冠水の危険性はない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

客土による漏水防止と共に磷酸の増施、珪カルの施用を要する。区画拡大に当って大型機械の運行は可能で作業も容易であるが、表土処理、客土を要する。防風霧林を要する。窒素、加里の分施を要す。

D 分布 北海道勇払郡厚真町清住

記載責任者 後 藤 計 二 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和42年3月

上 厚 真 - 2

示性分級式（水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 効 土 土 的 層 的 厚 深	有 効 土 土 的 層 的 厚 深	表 土 土 的 風 粘 土 着 硬 性	表 土 土 的 風 粘 土 着 硬 性	表 土 土 的 風 粘 土 着 硬 性	灌 漑 土 水 下 50cm 乾 透 最 高 土 密 度	酸 作 作 易 遊 グ 透 保 湿	土 分 離 化 性 酸 機 鉄 化 乾	土 自 然 層 分 換 " " 効 " "	養 置 有 微 酸 有 物 增 地	障 有 物 增 地 害 理 冠 す べ 水 り 的 的 障 害 の 危 險 性 度 無 性 度 素 度 無 性 度 否 性 性 性 性 性 性 性 性 性 性
	t d g p					l r			w f n		i a
④	IV	III	IV	I	I	2 1 2 III 3 3	I	1 2 3 ----- II 2 2 2 III 2 1 1 2 3 - 1 1 III 1 3	I	1 1	
								団 单 地 独			
④	IV	III	IV	I	I	2 1 2 ----- III 1 2 3 II 2 2 2 II 2 1 1 2 - - 1 1 III 1 3	I	1 1			
簡略分級式 IV d III t l n i II f											

④ IV d III t w i II f n

A 土壌の特徴

この土壌区は上厚真統に属する。火山灰層の下部がヨシからなる低位泥炭が集積している。表土の厚さは12~18cmで有効土層は20~25cmで浅い。表土は細粒質（客土）で粘着性は中庸、耕起碎土は容易である。漏水多く湛水透水性が大きい。易分解性有機物少なく酸化鉄中で根系障害は認められない。保肥力、固定力、塩基状態は中で自然肥沃度は中位である。養分は少ない。物理的障害が大きい。増冠大の危険性はない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

明渠は完備しているが暗渠は部分的であり完備を要する。いまだ漏水が多く客土を要する。その場合、堆厩肥、硅カル、磷酸の増施を要する。区画拡大にあたつては大型機械の運行は可能であり作業も容易であるが、表土処理、補正客土を要する。防風霧林の完備を要する。窒素、加里の分施を要す。

D 分布

北海道勇払郡厚真町富野、上野、新町

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月

示性分級式（水田）

	土 壤	表 有 効 土	表 土	耕 土	湛 水	作 作 易 遊 ぐ	土 透 保 湿	自 然 層	養 置 有 微 酸	障 有 物	災 增 地
	生 産 力 可 能 性 等 級	の 層 的 厚 深	の 風 乾 透 50cm	の 粘 土	の 水 下 50cm	の 還 有 機 物 含 量	の 水 潤 肥 定 塩 基 灰 土 里 酸 素 酸 要	の 水 潤 肥 定 塩 基 灰 土 里 酸 素 酸 要	の 水 潤 肥 定 塩 基 灰 土 里 酸 素 酸 要	の 水 潤 肥 定 塩 基 灰 土 里 酸 素 酸 要	の 水 潤 肥 定 塩 基 灰 土 里 酸 素 酸 要
		性 粘 着 硬	性 粘 着 硬	性 粘 着 硬	性 粘 着 硬	性 粘 着 硬	性 粘 着 硬	性 粘 着 硬	性 粘 着 硬	性 粘 着 硬	性 粘 着 硬
		量 易	量 易	量 易	量 易	量 易	量 易	量 易	量 易	量 易	量 易
		t d g p	I	r	w	f	n	i	a		
④	Ⅳ	Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅱ	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ
					団 単 地 独						
④	Ⅳ	Ⅱ Ⅱ Ⅰ Ⅰ Ⅱ Ⅱ	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅰ Ⅰ Ⅰ Ⅰ	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	Ⅲ Ⅲ Ⅲ Ⅲ
		簡略分級式 Ⅳ d Ⅲ l i Ⅱ t r f n									

④ Ⅳ d Ⅲ w i Ⅱ t f n

A 土壤区の特徴

この土壤区は上厚真統に属する。地表およびT a - a層とT a - b層との間に2 ~ 4 cmの泥炭層を夾在しているところである。表土の厚さは12 ~ 18 cmで有効土層は20 ~ 25 cmで浅い。表土は細粒質（客土）で粘着性は中。耕起、砕土は容易である。湛水透水性が大きい。易分解性有機物少なく酸化鉄中で根系障害は認められない。保肥力、固定力、塩基状態は中で自然肥沃度は中位である。表土の養分は中位である。物理的障害は大きい。増冠水の危険性はない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

明渠、暗渠の完備を要する。特に台地に接するところは滲透水が多く多湿であり排水すべきである。客土は行なわれているが漏水は多くさらに客土を要する。その場合硅カル、磷酸の増施、堆肥の補給を要する。区画拡大にあつては大型機械の運行は可能であり、作業も容易であるが、表土処理、補正客土を要する。防風霧林の完備を要する。窒素、加里の分施を要す。

D 分 布

北海道勇払郡厚真町富野、鯉沼、軽舞、上厚真  
 記載責任者 後 藤 計 二 （北海道立中央農業試験場）  
 年 月 日 昭和42年3月

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12～30cmで腐植含量2～3%、土性はCLでLの場合もある。色は7.5Y～10YRで彩度1、明度4～6。発達弱度の細粒状構造でち密度1.0～1.6で疎。酸化沈積物を含む。pH(H<sub>2</sub>O)5.6前後。下層との境界は判然。

第2層は4～8cmで腐植含量は2～3%、土性はCLでL、SLの場合がある。色は7.5Y～10YRで彩度1、明度4～6。発達弱度の板状構造あるいは均質連結状。ち密度は1.9前後で中。酸化沈積物に富む。pH(H<sub>2</sub>O)6.2前後。下層との境界明瞭。第1～第2層は水積(河成堆積)。

第3層は厚さ70～100cmで腐植含量は1%以下、土性はSである。色は5Y～7.5Yで彩度1～2、明度5～6。未風化小半角礫(軽石)に富む～礫層。ち密度は8～15で疎。下層に酸化沈積物を含む。pH(H<sub>2</sub>O)6.4前後。Ta-b層。

代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町豊川

第1層	0～14cm	腐植を含む黄灰(7.5Y4/1)のCL。発達弱度の細粒状、粒状構造。ち密度1.6で疎。酸化沈積物を含む。pH(H <sub>2</sub> O)5.6。調査時の湿り湿。境界判然。
第2層	14～19cm	腐植を含む黄灰(7.5Y4/1)のCL。発達弱度の板状構造。ち密度1.9で中。酸化沈積物に富む。pH(H <sub>2</sub> O)6.2。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第3層	19cm～	腐植を欠き3層に細区分され、19～44cmは黄灰(5Y5/2)のS。未風化小半角礫に富む。ち密度1.5で疎。酸化沈積物を含む。44～56cmは黄灰(7.5Y5/1)のS。未風化小半角礫に頗る富む。ち密度8で疎。56cm～は淡黄灰(7.5Y6/1)の未風化小半角礫層。Ta-b層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0～14	3.6	2.7.2	2.1.3	3.1.9	1.9.6	CL	1.48	0.18	9	2.6	5.6	4.45
2	14～19	3.4	3.1.1	1.5.3	3.1.7	2.1.9	CL	1.67	0.17	10	2.9	6.15	5.05
3	19～44	0.9	7.3.1	1.7.7	4.4	4.8	S	—	—	—	—	6.4	5.55

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30°C NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	1.87	19.2	11.5	4.6	0.7	59.8	8.66	3.76	8.66	10.8	9.57	0.80
2	0.30	13.3	7.5	3.2	0.4	56.3	5.77	2.45	5.77	9.9	9.57	1.09
3	0	2.2	1.0	0.7	0.7	45.4	—	—	—	7.3	3.84	—

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては上厚真統、富里統などがある。上厚真統は表土が客土であり、下層に酸化沈積物が存在し本統と区分される。富里統は表土の水積(河成堆積)層が30～50cmと厚く堆積していることにより区分される。

A-3 母材 非固結水成岩/非固結火成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）／風積（火山性）

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温 7℃、年平均雨量 1,207mm、春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く。冬季は積雪量少なく土壌は 70cm 内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項

磷酸の増施を要する。区画拡大にあたって大型機械の運行は可能であり、表土の処理を要する。また補正客土も必要である。窒素、加里の分施を要す。

F 分布 北海道勇払郡厚真町上厚真、富野、共栄、豊川

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和 42 年 3 月

共 栄

示性分級式（水田）

土壌	表土	表耕	湛	浸	遊	土	自	養	障	災																							
効力	土の層	土の層	土の風	土の乾	土の透	土の易	透	保	固	置	有	微	酸	有	物	増																	
産力	土の	土の	土の	土の	土の	土の	地	然	層	換	"	"	"	"	害	冠																	
可	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能	能																	
性	厚	含	難	着	硬	密	化	沃	基	灰	土	里	酸	素	酸	要																	
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性																	
級	さ	さ	易	量	量	量	度	度	力	力	態	量	"	"	"	"																	
	t	d	g	p	l	r	w	f	n	i	a																						
(稲) III	II	III	II	2	12-3	III	3	2	I	1	2	1	---	I	2	2	1	II	1	1	1	3	---	1	1	III	1	3	I	1	1		
(畑) III	II	III	I	II	2	1	2	---	---	---	---	---	I	1	2	1	I	2	2	1	I	1	1	1	---	1	1	III	1	3	I	1	1
簡略分級式 III d l i II t p n																																	

(畑) III d i II t

### A 土壌区の特徴

この土壌区は共栄統に属する。表土の厚さは 1.2～2.0cm、有効土層は 2.0～2.5cm で浅い。細粒質で粘着性はやゝ強く耕起、碎土はやゝ困難である。湛水透水性は大きい。易分解性有機物少なく、酸化鉄は中で根系障害は認められない。保肥力、固定力は中で自然肥沃度は高い。養分含量は中位である。物理的障害性が大きい。増冠水の危険性はない。

### B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

### C 地力保全上の問題点

堆厩肥、磷酸の増施を要する。区画拡大にあたって大型機械の運行は可能であるが表土処理を要す。また補正客土を要する。窒素、加里の分施を要す。

D 分布 北海道勇払郡厚真町上厚真、富野、共栄、豊川  
記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）  
年月日 昭和42年3月

新 町 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～30 cmで腐植含量は2～5%、土性はSiCである。色は10Yで彩度1、明度5。発達弱度～中度の細粒状構造。ち密度15～20で疎～中。酸化沈積物あり～含む。pH(H<sub>2</sub>O) 5.6～6.5。下層との境界ほぼ明瞭。

第2層は厚さ20～30 cmで腐植含量は1%以下、土性はSLでSの場合もある。色は2.5Y～5Yで彩度2～3、明度5。発達弱度の細粒状構造。ち密度16～17で疎～中。pH(H<sub>2</sub>O) 6.8～6.9。下層との境界明瞭。

第3層は厚さ70～80 cmで腐植含量1%以下、土性はSである。未風化小半角礫（軽石）に富む～礫層。Ta-b層。

代 表 的 断 面 形 態

（所在地） 北海道勇払郡厚真町新町

第1層	0～13 cm	腐植を含む黄灰（2.5GY5/1）のSiC。発達弱度の細粒状、粒状構造。ち密度15で疎。酸化沈積物を含む。pH(H <sub>2</sub> O) 5.6。調査時の湿り湿。下層との境界明瞭。
第2層	13～18 cm	腐植を含む黄褐灰（10YR5/1）のSiC。均質連結状。ち密度20で中。酸化沈積物あり。pH(H <sub>2</sub> O) 6.5。調査時の湿り湿。下層境界は判然。
第3層	18～30 cm	腐植を欠く黄褐灰（2.5Y5/2）のSiC。発達弱度中の細粒状構造、粒状構造。ち密度18で中。pH(H <sub>2</sub> O) 6.6。調査時の湿り湿。下層との境界明瞭。
第4層	30～38 cm	腐植を欠く暗灰黄（5Y5/3）のSL。単粒状。ち密度17で中。pH(H <sub>2</sub> O) 6.9。調査時の湿り湿。下層との境界明瞭。
第5層	38～47 cm	腐植を欠く暗黄褐（2.5Y4/4）のSL。単粒状。ち密度16。pH(H <sub>2</sub> O) 6.8。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第6層	47 cm～	腐植を欠く黄灰（7.5Y5/1）のS。未風化小半角礫に頗る富む～礫層。Ta-b層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	p H	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~13	4.3	4.0	19.2	48.7	28.0	SiC	2.61	0.21	12	4.5	5.55	4.35
2	13~18	4.7	4.3	16.1	53.4	26.2	SiC	1.91	0.18	11	3.3	6.45	5.3
3	18~30	4.4	7.1	7.6	55.2	30.1	SiC	—	—	—	—	6.55	5.4
4	30~38	1.1	68.5	11.5	11.9	8.1	SL	—	—	—	—	6.85	5.85
5	38~47	1.5	50.0	17.5	20.0	12.5	SL	—	—	—	—	6.75	5.55

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30°C NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	3.75	22.6	11.0	4.8	0.8	48.6	8.92	3.76	8.92	2.5	1.113	1.04
2	0.30	25.6	17.6	6.9	0.9	68.8	—	—	—	15.1	1.197	1.00
3	0	26.8	19.4	9.2	0.9	64.9	6.03	2.53	6.03	1.38	1.197	—
4	0	5.0	2.9	0.3	0.1	58.6	—	—	—	10.1	4.25	—
5	0	7.6	5.9	2.4	0.3	77.6	—	—	—	10.6	6.74	—

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては上厚真統、共栄統がある。上厚真統は表土は水積（河成堆積）層がなく客土によるものでありかつ浅いこと、共栄統は表土が12~20cm前後で本統より薄いことにより区分される。

A-3 母材 非固結水成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）／風積（火山性）

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温7°C、年平均雨量1207mm。春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く、冬季は積雪量少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項

理化学性良好で問題はない。

F 分布 北海道勇払郡厚真町新町

調査および記載責任者 後、藤 計 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和42年3月



新 町

土	表	表	耕	漚	酸	遊	グ	土	自	養	障	災
壤	効	土	土	土	土	土	分	地	透	保	固	地
生	土	土	土	水	下	化	離	地	然	層	換	効
産	土	土	土	50	cm	性	酸	地		の	性	態
力	の	の	風	乾	透	の	還	有	水	水	潤	肥
可	層	の	の	粘	土	の	高	機	の	定	塩	の
能	の	燥	粘	土	の	元	機	鉄	の	基	灰	土
性	厚	含	難	土	着	硬	土	密	乾	沃	状	豊
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	力	態	量
級	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	度	否	素
								濕	度			度
	t	d	g	p								
					l		r		w		f	
												n
												i
												a
⑧	I	II	I	III	3	2	3	I	2	2	II	2
	2	2	1	—	—	—	—	I	1	2	2	II
												1
												1
												2
												3
												—
												1
												1
												II
												1
												2
												I
												1
												1
⑨	I	II	I	II	3	2	3	—	—	—	—	—
									I	1	1	I
												1
												2
												II
												1
												1
												2
												I
												1
												1
												1

簡略分級式 III p l d r n i

⑧ II d p n i

A 土壤区の特徴

この土壤区は新町統に属する。表土の厚さは20～30cmで厚いが有効土層は30～50cmでやゝ浅い、微粒質で粘着性中で耕起、砕土にあたつては困難である。漚水透水性は小さい。易分解性有機物、酸化鉄は中で根系障害のおそれがある。保肥力は大きく、固定力の中で自然肥沃度は高い。養肥分は多い、物理的障害は小さい。増冠水の危険性は低い。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

理化学性が良好で問題はない。

D 分布 北海道勇払郡厚真町新町

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月

東 厚 真 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16～20cmで腐植含量は2～4%、土性はCLである。色は2.5GYで彩度1、明度5である。発達弱度の細塊状、粒状構造および板状構造。ち密度15～18で疎～中。酸化沈積物あり～含む。pH(H<sub>2</sub>O) 5.6～6.2。下層との境界判然。

第2層は厚さ70～100cmで腐植含量は1%以下、土性はCLでSiCの場合もある。色は2.5Y～7.5Yで彩度1～4、明度4～6。発達弱度の細粒状、粒状構造。細孔は少ないが割目が多い。ち密度14～16で疎。上層に酸化沈積物を含む場合がある。pH(H<sub>2</sub>O) 5.7～6.3。

代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町新町

第1層	0~16cm	腐植を含む黄灰(2.5GY5/1)のCL。発達弱度の細塊状、細粒構造。ち密度15で疎。酸化沈積物あり。pH(H <sub>2</sub> O)5.6。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第2層	16~21cm	腐植を含む黄灰(2.5GY5/1)のCL。均質連結状。ち密度18で中。酸化沈積物あり。pH(H <sub>2</sub> O)6.2。調査時の湿り半湿。境界判然。
第3層	21~30cm	腐植を欠く黄灰(7.5Y6/2)のCL。発達弱度の粒状構造。ち密度16で疎。酸化沈積物あり、pH(H <sub>2</sub> O)6.2。調査時の湿り半湿。境界漸変。
第4層	30~53cm	腐植を欠く暗黄褐(2.5Y4/4)のSiC。発達中度の細粒状構造。ち密度14で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.3。調査時の湿り半湿。境界漸変。
第5層	53cm~	腐植を欠く暗黄褐(2.5Y4/4)のCL。発達弱度の細粒状構造。ち密度14で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.7。調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~16	3.4	1.0	41.7	35.9	21.4	CL	1.86	0.20	9	3.2	5.55	4.5
2	16~21	3.6	1.2	48.7	31.5	18.6	CL	1.32	0.16	8	2.3	6.15	5.0
3	21~30	3.4	0.3	49.8	34.3	15.6	CL	0.60	0.13	5	1.0	6.2	5.25
4	30~53	1.3	3.1	21.0	48.6	27.3	SiC	—	—	—	—	6.25	5.2
5	53~	3.6	0.5	37.3	44.3	17.9	CL	—	—	—	—	5.65	5.3

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30℃NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	3.75	17.5	9.3	4.3	0.6	53.0	10.75	3.67	10.75	6.2	1020	0.98
2	0.60	17.9	11.5	5.0	0.7	65.5	6.82	2.45	6.82	9.1	1103	0.98
3	0.30	19.3	13.1	5.9	0.8	67.6	—	—	—	11.1	999	—
4	0.30	23.4	16.1	5.8	1.0	69.0	—	—	—	15.0	1515	—
5	0.30	21.2	14.9	5.9	0.9	70.4	—	—	—	22.4	957	—

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては富里統、東和統などがある。富里統は土層中に火山砂礫を夾在しており、東和統は下層に砂層を夾在していることにより本統と区分することができる。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温 7℃、年平均雨量 1,207mm。春季~夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続

き、冬季は積雪量少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項

湛水透水性が小さく生育は遅延しがちである。窒素の施用にあたり表層施肥に重点をおき管理することが望ましい。区画拡大にあたり大型機械の運行は可能であるがスリツプのおそれが多い。また極端に透水性が小さくなるおそれがあり留意を要する。

F 分布 北海道勇払郡厚真町新町

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月

東 厚 真

示性分級式（水田）

土壌	表土	表耕	表表	湛	作	酸	易遊	土	透保	自	養	置	有	微酸	障	災	増地																				
効	土	土	土	土	土	土	分	地	然	層	換	効	効	害	害	冠	す																				
産	土	土	土	土	土	土	ラ	地	地	然	層	換	効	効	害	害	冠																				
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																				
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																				
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の																				
性	厚	含	難	着	硬	密	元	化	乾	沃	状	豊	含	素	度	無	性																				
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性																				
級	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性																				
	td	g	p		l	r		w		f	n				i	a																					
①Ⅱ	I	I	I	II	2	2	3	I	2	2	II	2	2	1	—	—	—	I	2	2	1	I	1	1	2	2	—	1	1	I	1	1	1	1			
②Ⅱ	I	I	I	II	2	2	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	I	1	1	1	I	2	2	1	I	1	1	1	2	—	1	1	I	1	1	1
簡略分級式 II p r																																					

①Ⅱ II p

A 土壌区の特徴

この土壌区は東厚真統に属する。表土の厚さは20～30cmで、有効土層は1m以上で深い。細粒質で粘着性や強く耕起、碎土にあたってや困難である。湛水透水性は小さい。易分解性有機物、酸化鉄は中で根系障害のおそれがある。保肥力、固定力中で自然肥沃度は高い。養分は多い。障害性はない。増冠水のおそれはない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

稲の生育は遅延しがちである。窒素の施用にあたり表層施肥に重点をおき管理することが望ましい。区画拡大にあたり大型機械の運行は可能であるがスリツプのおそれがあり、また透水性が小さくなる

おそれがある。

D 分布 北海道勇払郡厚真町新町  
 記載責任者 後藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)  
 年 月 日 昭和42年3月

富 里 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ16~30cmで腐植含量は2~4%、土性はCLでLの場合もある。色は10YR~2.5Yで彩度2、明度4~5。発達弱度の細粒状、細塊状構造。ち密度10~21で疎~中。酸化沈積物あり、pH(H<sub>2</sub>O)5.5~5.8。下層との境界は明瞭。

第2層は厚さ30~60cmで腐植を欠き、土性はSLでLの場合あるいはLとSLの互層の場合がある。礫層。色は10YRで彩度4~6、明度5~8。単粒状、ち密度15~21で疎~中。

pH(H<sub>2</sub>O)6.0~6.5。下層との境界明瞭。

第3層は厚さ40~50cmで腐植含量を欠き、土性はLiCであるいはL、SLの場合も多い。色は10YRで彩度2、明度4。発達弱度の細粒状構造で細孔が多い。ち密度18で中。pH(H<sub>2</sub>O)6.5。本層を欠く場合がある。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町幌内

第1層	0~11cm	腐植を含む黄褐灰(2.5Y4/2)のCL。発達弱度の細塊状、細粒状構造。ち密度13で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.5。酸化沈積物あり、調査時の湿り半湿。下層との境界明瞭。
第2層	11~21cm	腐植を含む黄褐灰(2.5Y5/2)のCL。発達弱度の板状構造。ち密度21で中。pH(H <sub>2</sub> O)5.8。酸化沈積物あり。調査時の湿り半湿。下層との境界明瞭。
第3層	21~50cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR5/4)のSLで2層に細区分され21~30cmはち密度21で中。30~50cmはち密度15で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.5。調査時の湿り半湿。下層境界明瞭。
第4層	50cm~	腐植を欠く黄褐灰(10YR4/2)のLiC。発達弱度~中の細粒状構造で孔隙に富む。ち密度18で中。pH(H <sub>2</sub> O)6.5。調査時の湿り半湿。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~11	3.2	15.4	35.3	29.7	19.5	CL	2.43	0.21	1.2	4.2	5.45	4.35
2	11~21	2.9	18.9	34.0	28.2	18.9	CL	1.39	0.20	7	2.4	5.75	4.7
3	21~50	1.6	57.5	17.5	16.0	9.0	SL	—	—	—	—	6.45	5.3
4	50cm~	3.5	3.5	29.8	39.0	27.7	LiC	—	—	—	—	6.45	5.1

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	30°C NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄%
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	5.61	17.9	8.0	3.4	0.5	45.0	10.49	3.85	10.49	12.0	8.45	0.71
2	0.60	17.7	9.3	3.5	0.4	52.6	8.74	3.85	8.74	4.9	9.27	1.09
3	0.30	7.9	4.9	1.4	0.2	62.3	—	—	—	8.9	6.53	0.64
4	0.30	22.6	15.6	5.5	1.3	69.1	—	—	—	10.4	10.20	0.89

#### A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては東厚真統、新町統、共栄統などがある。東厚真統は下層まで土性が細粒質であり、新町統は表土は土性が細かく粘質でありかつT a-b層が厚く堆積しており、共栄統は表土の水積層が薄くT a-b層が堆積していることによりそれぞれ本統と区分することが出来る。

#### A-3 母材 非固結水成岩

#### A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

#### B 地形 平坦な低地

#### C 気候

年平均気温7℃、年降水量1207mm。春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続き冬季は積雪量少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

#### D 植生および利用状況

水田(一毛作田)

#### E 農業上の留意事項

理化学性は良好で問題は少ない。なお下層は中粒質で透水性がやや大きいので窒素は全層施肥に重点をおき、また分施も望ましい。また堆肥の施用に留意を要する。

#### F 分布 北海道勇払郡厚真町吉野、豊里、高丘、幌内

調査および記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和42年3月

富 里

示性分級式（水田）

土壌	表土	表土	耕土	湛水	作土	作土	易遊グ	土	自透	養保	置固	有土	微酸	障有	災物	増地	
生	効	土	土	土	土	土	分	地	然	層	換	"	"	"	"	"	害
産	土	土	土	水	土	土	離										害
力	の	の	の	の	の	の	性										物
可	の	の	の	の	の	の	酸										的
能	の	の	の	の	の	の	イ										の
性	厚	含	難	着	水	土	化										害
等	深	土	土	土	土	土	乾										障
級	さ	量	易	性	性	性	度										無
																	性

	t	d	g	p	l	r	w	f	n	i	a
③	II	I	I	I	II	2	2	2	II	2	2
	I	I	I	I	II	2	2	II	2	3	1
								---	II	2	2
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1
									I	1	1

③ II f

A 土壌区の特徴

この土壌区は富里統に属する。表土は16～30cmで一般に厚く、有効土層も1m以上で深い。細粒質で粘着性中で耕起、砕土はやゝ困難である。湛水透水性は適当である。易分解性有機物は中、酸化鉄は少であるが根系障害は認められない。保肥力、固定力、塩基状態は中で自然肥沃度は中である。養分は多い。障害性はない。増冠水のおそれはない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

理化学性は良好で問題は少ない。なお下層は中粒質でやゝ透水性が大きいので窒素は全層施肥に重点をおき、また分施も望ましい。堆厩肥の施肥に留意を要する。区画拡大にあたって大型機械の運行は可能である。

D 分布 北海道勇払郡厚真町吉野、豊里、高丘、幌内

記載責任者 後 藤 計 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和42年3月

東 和 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18～35cmで腐植含量は2～4%、土性はSLが主でLの場合もある。色は1.0YR

で彩度1~2、明度5~6。発達弱度の細粒状構造。ち密度は12~20で疎~中。pH(H<sub>2</sub>O) 5.5~6.4。酸化沈積物あり。下層との境界は明瞭。

第2層は厚さ60~70cmで腐植含量は1%以下、土性はSiCLとS(軽石の二次水積物)の互層でCL層は薄く(4~10cm); S層が全体として厚い。発達弱度の板状構造(CL層)、単粒状(S層)の互層。ち密度10~15で疎。pH(H<sub>2</sub>O) 6.1前後。CL層に酸化沈積物ありの場合が多い。

代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町東和

第1層	0~12cm	腐植を含む黄褐灰(10YR5/2)のSL。発達弱度の細塊状構造。ち密度12で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半湿。下層境界明瞭。
第2層	12~20cm	腐植を含む黄褐灰(10YR5/1)のSL。板状あるいは単一状。ち密度21で中。pH(H <sub>2</sub> O) 5.9。酸化沈積物あり。調査時の湿り半湿。下層境界明瞭。
第3層	20~32cm	腐植を欠きSL。単粒状。ち密度15で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 6.4。調査時の湿り半湿。下層境界明瞭。
第4層	32~38cm	腐植を欠く褐灰(7.5YR4/2)のSiCL。均質連結状。ち密度14で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 6.1。酸化沈積物あり。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第5層	38cm~	腐植を欠きS; SiCLの互層。ち密度10~13で疎。調査時の湿り半湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~12	2.5	42.0	29.4	16.7	11.9	SL	2.20	0.21	10	5.8	5.5	4.45
2	12~20	2.5	41.4	28.6	19.1	10.7	SL	1.54	0.17	9	2.7	5.85	4.75
3	20~32	1.7	52.2	27.2	13.9	6.7	SL	—	—	—	—	6.35	5.25
4	32~38	4.0	8.7	20.9	47.2	23.2	SiCL	—	—	—	—	6.05	5.1

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30°C NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	3.12	12.9	4.6	2.8	0.4	35.6	12.50	3.93	12.50	7.4	7.63	0.75
2	0.60	12.4	5.6	2.8	0.3	45.7	5.41	2.36	5.41	4.5	7.21	1.25
3	0.30	8.9	5.6	3.5	0.5	63.2	—	—	—	8.1	5.10	—
4	0.60	3.10	16.9	7.2	0.9	54.4	—	—	—	5.8	1.186	—

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統としては富里統、上厚真統がある。何れも土性が細粒質で細かいことにより区分される。

A-3 母材 非固結水成岩、非固結火成岩(軽石)

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

やゝ平坦な低地

C 気候

年平均気温 7℃、年平均雨量 1,207mm。春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く、冬季は積雪量少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項

部分的に透水性がやゝ大きく、施肥にあたり堆肥の施用、窒素は全層施肥に重点をおきかつ分肥が望ましい。なお灌漑水温が低いところも多いので水温上昇施設を要する。

F 分布 北海道勇払郡厚真町東和、上幌内

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月

東 和

示性分級式（水田）

土壌	表土	耕層	湛	酸	土	自	養	障	災																															
効土	表表	表表	作作	易遊	透保	湿	固土	置	有	微酸	有物	増地																												
土	土	土	土	土	分	離	然	層	換	"	"	効	"	"	害理	冠す																								
産	土	耘	土	土	下	化										害	冠す																							
力	土	の	の	風	50	cm	性	酸									害	冠す																						
可	の	層	の	乾	透	cm	還	有	化	イ	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	質	害	の	の											
能	の	礫	粘	土	の	高	機	鉄	化	乾																														
性	厚	含	土	着	水	ち	元	含	化	乾																														
等	深	性	性	性	性	度	量	量	度	湿																														
級	さ	量	易	性	性	性	性	性	度	度	湿																													
	t	d	g	p		l		r		w		f		n		i		a																						
③Ⅱ	I	I	I	I	1	1	1	Ⅱ	3	2	I	2	3	1	—	—	—	—	Ⅱ	2	2	2	Ⅱ	2	1	1	2	2	—	1	1	I	1	1	I	1	1			
③Ⅱ	I	I	I	I	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	I	1	2	1	Ⅱ	2	2	2	Ⅱ	2	1	1	2	—	—	1	1	I	1	1	I	1	1			
簡略分級式										Ⅱ l f n																														

③Ⅱ Ⅱ f n

A 土壌区の特徴

この土壌区は東和統に属する。表土の厚さは18～35cmで一般に厚く、有効土層も深い。中粒質で粘性弱く耕起、砕土は容易である。湛水透水性は中でやゝ大きいところも多い。根系障害は認められない。保肥力、固定力、塩基状態は中で自然肥沃度は中位で養分も中位である。障害性はない。増冠水のおそれはない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点



全般に透水性がやゝ大きく施肥にあたり堆肥の施用、窒素は全層施肥に重点をおき、かつ分肥が望ましい。なお灌漑水温が低いので水温上昇施設を要する。

D 分布 北海道勇払郡厚真町東和、上幌内

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月

上 野 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12~20cmで腐植含量は2~3%、土性はSLが主でL、CLの場合もある。色は10YRで彩度1、明度4。発達弱度の細粒状構造。ち密度13~18で疎~中。酸化沈積物を含む。pH(H<sub>2</sub>O)5.6前後。下層との境界は明瞭。

第2層は厚さ60~80cmで腐植含量は1%以下。土性はSで未風化小半角礫（軽石）に富む~礫層。色は5Yで彩度1~2、明度5~6。酸化沈積物を含む。pH(H<sub>2</sub>O)6.4~6.5。湧水。地下水位40~60cm。Ta-b層。

代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町上野

第1層	0~12cm	腐植を含む黄褐灰(10YR4/1)のSL。発達弱度の細塊状、細粒状構造。ち密度13で疎。酸化沈積物あり。pH(H <sub>2</sub> O)5.6。調査時の湿り湿。下層境界判然。
第2層	12~17cm	腐植を含む黄褐灰(10YR4/1)のSL。発達弱度の細塊状構造。ち密度18で中。酸化沈積物あり、pH(H <sub>2</sub> O)5.6。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第3層	17~28cm	腐植を欠く黄褐(2.5Y5/4)のLS。単粒状。ち密度11で疎。酸化沈積物に富む。pH(H <sub>2</sub> O)6.4。調査時の湿り湿。境界漸変。
第4層	28~46cm	腐植を欠く黄灰(5Y5/2)のS。未風化小半角礫（軽石）に富む。ち密度11で疎。pH(H <sub>2</sub> O)6.5。調査時の湿り湿。境界漸変。
第5層	46cm~	腐植を欠く黄灰(5Y6/1)の未風化小半角礫層（軽石）。酸化沈積物あり。調査時の湿り多湿。地下水位66cm。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~12	2.7	49.3	22.0	17.4	11.2	SL	1.37	0.16	9	2.4	5.55	4.5
2	12~17	2.8	47.3	23.0	18.5	11.1	SL	1.47	0.16	9	2.5	5.55	4.5
3	17~28	1.3	67.8	24.8	4.5	2.9	LS	—	—	—	—	6.35	5.6
4	28~46	1.5	79.6	9.4	9.5	1.5	S	—	—	—	—	6.45	6.1

層位	置換酸度 $Y_1$	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30°C NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	2.50	9.2	4.2	4.7	0.2	46.2	8.30	3.58	8.30	9.0	61.8	0.81
2	1.87	8.9	4.8	2.3	0.2	54.0	6.82	2.53	6.82	8.2	68.0	0.78
3	0	2.1	1.0	0.7	0.0	47.6	—	—	—	9.3	44.5	—
4	0	0.5	0.2	0.3	0.0	40.0	—	—	—	4.9	22.5	—

#### A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として上厚真統、共栄統、新町統がある。上厚真統は表土が客土による土壌であり、共栄統は同様な堆積様式であるが地下水位が低く下層に酸化沈積物はなく、新町統は表土の土性が細粒質でありかつ層厚も30~50cmと厚いところであり、地下水位も低いことによりそれぞれ区分される。

#### A-3 母材 非固結水成岩/非固結火成岩

#### A-4 堆積様式 水積(河成堆積)/風積(火山性)

#### B 地形 平坦な低地

#### C 気候

年平均気温7°C、年平均雨量1,207mm。春季~夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続き、冬季は積雪少なく土壌は70cm内外凍結する。

#### D 植生および利用状況

水田(一毛作田)

#### E 農業上の留意事項

暗渠排水を要する。なお漏水する田も多いので客土を、また堆肥の施用、磷酸の増施を要する。区画拡大にあたっては大型機械の運行は可能である。なお表土処理、さらに補正客土が必要である。

#### F 分布 北海道勇払郡厚真町字上野、美里、富野、上厚真

調査および記載責任者 後藤計二(北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和42年3月

上 野

示性分級式（水田）

土 壤	表 土	耕 作	湛 水	酸 性	遊 離	土 質	自 然	養 分	障 害	災 害							
生 産 力	効 率	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質	地 質	層 分	有 害	微 酸	物 理 的	増 冠 水					
可 能 性	厚 薄	含 難	土 着	硬 質	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質	土 質					
等 級	さ さ	量 易	性 性	性 性	性 性	量 量	度 度	湿 性	性 性	度 度	力 力	態 態	量 量	素 素	無 無	性 性	度 度
	t d g p																
③	I III I	I I 1 2	III 3 2	II 1 2 2	— — — —	II 2 1 2	III 2 1 2 2 3	— 1 1	III 1 3	I 1 1							
						団 単 地 独											
④	I III I	I 1 1 2	— — — — — — — — — —			III 2 1 3	II 2 1 2	II 2 1 2 2	— 1 1	III 1 3	I 1 1						
簡略分級式 III d l n i II r f																	
④ III d w i II f n																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は上野統に属する。表土の厚さ12～20cmで有効土層は30cm内外で浅い。中粒質で粘着性弱く耕起、碎土は容易である。湛水透水性は大きい。易分解性有機物は少なく、酸化鉄は中で根系の障害はない。保肥力中庸、固定力は小さく自然肥沃度は中位。養分にやゝ乏しい。物理的障害が大きい。増冠水のおそれはない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

全域暗渠を完備すべきである。また客土により透水性を小さくすることにつとめるべきである。また堆厩肥の施用、燐酸の増施を要する。窒素、加里の分肥が必要である。区画拡大にあたって大型機械の運行は可能である。なお表土処理、補正客土が必要である。防風霧林を要す。

D 分布 北海道勇払郡厚真町字上野、美里、富野、上厚真

記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）  
年 月 日 昭和42年3月

下 宇 隆 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18～25cmで腐植含量3～5%、土性はCL、LICである。色は10YRで彩度2、明度5。発達弱度の細塊状構造。ち密度12～18で疎～中。酸化沈積物あり。pH(H<sub>2</sub>O)

5.4～6.4。下層との境界は明瞭。

第2層は厚さ20～40cmで腐植含量1%以下、土性はSiCである。色は10YR～2.5Yで彩度2、明度5～6。酸化沈積物あり～含む。発達弱度の細粒状構造。ち密度12～18で疎～中。pH(H<sub>2</sub>O)5.5～6.3。下層との境界明瞭。

第3層は厚さ60～80cmで腐植含量1%以下、土性はSで未風化小半角礫(軽石)に富む～礫層。Ta-b層。

代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町宇隆

第1層	0～12cm	腐植を含む黄褐灰(10YR5/2)のCL。発達弱度の細塊状構造。ち密度12で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半湿。下層との境界明瞭。
第2層	12～23cm	腐植を含む黄褐灰(10YR5/2)のLiC。板状構造。ち密度18で中。pH(H <sub>2</sub> O)6.4。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第3層	23～40cm	腐植を欠く黄褐灰(2.5Y6/2)のSiC。均質連結状で細孔含む。ち密度18で中。pH(H <sub>2</sub> O)6.3。酸化沈積物を含む。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第4層	40～55cm	腐植を欠く黄褐灰(10YR5/2)のSiC。ち密度12で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.5。酸化沈積物あり。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第5層	55cm～	腐植を欠く淡黄灰(7.5Y6/1)のS。未風化小半角礫(軽石)に富む～礫層。ち密度10で疎。調査時の湿り多湿。湧水。地下水位70cm。Ta-b層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0～12	2.7	23.5	16.5	36.2	23.8	CL	2.43	0.24	10	4.2	5.35	4.25
2	12～23	4.1	12.7	15.0	44.8	27.5	LiC	2.48	0.22	11	4.3	6.35	5.3
3	23～40	4.9	5.2	8.0	55.3	31.5	SiC	—	—	—	—	6.25	5.15
4	40～55	4.8	0.6	9.6	60.9	28.9	SiC	—	—	—	—	5.45	4.4

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30℃NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	6.25	20.1	7.9	3.5	0.4	39.0	12.24	4.63	12.24	7.0	9.48	0.91
2	0.30	24.5	16.3	6.5	0.6	66.2	7.87	2.36	7.87	13.4	11.03	1.20
3	0.30	27.5	16.6	10.0	0.8	60.3	—	—	—	8.4	14.07	—
4	3.12	30.5	11.5	9.3	0.9	37.7	—	—	—	—	13.23	—

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として上野統、上厚真統、共栄統、新町統などがある。上野統、上厚真統、共栄統は何れも表土の細粒質土壌が薄く火山砂礫層の出現が浅い。新町統は堆積様式は類似するが地下水

位は低く下層に酸化沈積物がないことにより区分される。

A-3 母材 非固結水成岩／非固結火成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）／風積（火山性）

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温は7℃、年降水雨量1207mm。春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続くが、冬季は積雪は少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項

地下水位高く全域暗渠を要する。透水性は小さく稲は遅延の傾向があり窒素は表層施肥に重点をおくべきであろう。

F 分布 北海道勇払郡厚真町、本郷、朝日、宇隆

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月

下 宇 隆

示性分級式（水田）

土	表	有	表	耕	表	表	表	湛	酸	易	遊	グ	土	透	保	湿	自	保	固	土	養	置	有	微	酸	障	災	
壤	効	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	地	然	層	分	換	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効
生	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	地	然	層	分	換	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	地	然	層	分	換	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効	効
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	含	難	土	着	硬	土	土	土	土	土	土	地	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p				l		r			w		f		n								i		a	
①	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
②	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ

A 土壌区の特徴

この土壌区は下宇隆統に属する。表土の厚さは18～25cmで有効土層は40～50cmでやや浅い。細粒質で粘着性は中庸で耕起、碎土は容易である。湛水透水性は小さい。易分解性有機物、酸化鉄は中で根系障害のおそれがある。保肥力大きく固定力、塩基状態は中で自然肥沃度は中位である。養肥分は多い。物理的障害は少ない。増冠水のおそれはない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

全域暗渠により地下水位の低下を図るべきである。稲は遅延の傾向があり窒素は表層施肥に重点をおくべきであろう。

D 分布 北海道勇払郡厚真町本郷、朝日、宇隆

記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和42年3月

軽 舞 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25~40cmは腐植含量は5~8%、土性はLiC~Lである。色は10YRで彩度2~3、明度3~6。発達弱度の細塊状、細粒状あるいは均質連結状の場合もある。ち密度11~18で疎~中。pH(H<sub>2</sub>O) 5.4~6.2。下層との境界は明瞭。

第2層は腐植含量は1%以下、土性はS(水積の軽石)とLとの互層。色はSは10YRで彩度1、明度4~6。Lは2.5Y~2.5GYで彩度1~2、明度3~4。ち密度10~13で疎。湧水。地下水位40~70cm。

代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町朝日

第1層	0~13cm	腐植に富む灰褐橙(10YR 6/3)のLiC。発達弱度の細塊状構造。ち密度11で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 5.4。酸化沈積物あり。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第2層	13~25cm	腐植に富む黒褐(10YR 3/2)のCL。発達弱度の柱状構造。ち密度18で中。pH(H <sub>2</sub> O) 6.2。酸化沈積物あり。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第3層	25~42cm	腐植に富む黒褐(10YR 3/2)のCL。均質連結状。ち密度12で疎。pH(H <sub>2</sub> O) 5.8。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第4層	42~70cm	腐植を欠くS。3層に細区分され42~57cmは黄灰(5Y 5/2)で未風化小円礫(水積軽石)に富む。57~63cmは暗黄灰(2.5GY 4/1)。63~70cmは黄灰(5Y 6/1)で未風化小円礫(水積軽石)に富む。ち密度は疎。調査時の湿り多湿。地下水位70cm。境界明瞭。
第5層	70~85cm	腐植を含む黒褐(2.5Y 3/2)のL。調査時の湿り多湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~13	6.1	4.1	29.4	40.1	26.4	LiC	2.97	0.30	10	5.1	5.35	4.4
2	13~25	5.6	0.7	44.5	33.8	21.0	CL	4.98	0.38	13	8.6	6.15	5.2
3	25~42	5.2	1.1	39.5	38.7	20.7	CL	4.67	0.40	12	8.1	5.75	4.7

層位	置換酸度 $Y_1$	塩基置換容量 $me/100g$	置換性塩基 $me/100g$			石灰飽和度%	30°C $NH_3-N$ 発生量 $mg/100g$		有効態 $mg/100g$		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄%
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	2.50	26.2	11.9	4.7	0.6	45.5	18.53	5.41	18.53	0.9	15.04	1.35
2	0.30	37.6	24.2	8.8	0.8	64.4	11.45	3.14	11.45	16.1	13.78	0.99
3	0.60	37.4	18.4	8.8	0.8	49.1	—	—	—	6.8	13.35	—

#### A-2 他の土壌統との関係

本土壌統に類似する統としては東和統がある。堆積様式は類似するが東和統は地下水位低く腐植含量が少ないので区分することができる。

#### A-3 母材 非固結水成岩、非固結火成岩

#### A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

#### B 地形 平坦な低地で小沢に主に分布。

#### C 気候

年平均気温7℃、年平均雨量は1207mm。春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続き、冬季は積雪量少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

#### D 植生および利用状況

水田（一毛作田）

#### E 農業上の留意事項

地下水位が高く明渠、暗渠を要す。なお小沢にあつては一部河川改修が必要である。堆厩肥、増基の補給、磷酸の増施を要する。区画拡大にあつて大型機械の運行は可能である。

#### F 分布 北海道勇払郡厚真町軽舞、幌里、桜岡

調査および記載責任者 後藤 計二（北海道立中央農業試験場）

年月日

昭和42年3月

軽

舞

示性分級式(水田)

土壌	表有表耕	湛	酸	土	自	養	障	災																										
生	効	表	表	作	作	易	遊	グ	透	保	湿	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地												
産	土	土	土	土	土	分	離	地		然			層	分	換	"	"	"	"	"	"	"	"											
力	土	土	の	の	の	下	50	cm	性	酸						の	性	態	量	物	的	水												
可	の	の	の	乾	透	cm	の	還	有	化	イ	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	窒	珪	害	質	害	の	の				
能	の	の	粘	土	最	機	鐵	化													基	灰	土	里	酸	酸	要	の	障	危	險			
性	厚	含	難	土	着	水	ち	元	物	含	化	乾									沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃	沃		
等	深	性	性	性	性	性	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	
級	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
	t	d	g	p		l	r		w	f		n																						
(細) III	I	I	I	II	3	2	3	II	1	2	2	1	—	—	—	II	1	2	2	III	1	3	1	3	2	—	1	I	1	I	1	I	1	
(細) III	I	I	I	II	3	2	3	—	—	—	—	—	III	1	1	3	II	1	2	2	III	1	3	1	3	—	—	1	I	1	I	1	I	1

簡略分級式 III n ll l p f

(細) III w n ll p f

A 土壤区の特徴

この土壤区は軽舞統に属する。表土は2.5～4.0 cmで厚く、有効土層も1 mで深い。微粒質であるが粘着性には中で耕起、砕土にあたってやゝ困難である。湛水透水性は中位で一部には大きいところもある。易分解性有機物、酸化鉄は中で根系障害は認められない。保肥力は大きく、固定力、塩基状態は中で自然肥沃度は中位であるが養肥分に乏しい。障害性はない。増冠水のおそれはない。

B 植生および利用状況

水田(一毛作田)

C 地力保全上の問題

明渠、暗渠を要す。また河川の改修により排水を容易にすべきで小沢において特に必要である。堆肥、塩基の補給、磷酸の増施を要する。また窒素、加里の分肥も考慮すべきである。区画拡大にあたっては大型機械の運行は可能である。

D 分布 北海道勇払郡厚真町軽舞、幌里、桜岡

記載責任者 後藤計二(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和42年3月

上 宇 隆 統

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ30～40 cmで腐植含量1～2%、土性はSLでLの場合もある。色は10 YR～2.5



Yで彩度2~3、明度5~6。発達弱度の細塊状、細粒状構造。酸化沈積物を含む。未風化小円礫を含む。ち密度1.4~2.3で疎~中。pH(H<sub>2</sub>O)5.8~6.3。下層との境界明瞭。

第2層は厚さ25~30cmで腐植含量1%以下。土性はSで未風化小半角礫(軽石)に富む。色は2.5Yで彩度2、明度5。単粒状。酸化沈積物を含む~あり。ち密度は疎。下層との境界は明瞭。

第3層は厚さ30cm以上で未風化小円礫層。湧水。

代表的断面形態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町宇隆

第1層	0~12cm	腐植を含む黄褐灰(2.5Y5/2)のSL。単粒状。未風化小円礫あり。ち密度1.4で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.8。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第2層	12~30cm	腐植あり黄褐灰(2.5Y5/2)のSCL。単一状および板状構造。未風化小円礫あり。ち密度1.8で中。pH(H <sub>2</sub> O)5.8。調査時の湿り半湿。境界判然。
第3層	30~40cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR6/3)のSL。発達弱度の細粒状および単一状。未風化小円礫あり。ち密度2.3で中。pH(H <sub>2</sub> O)6.3。酸化沈積物あり。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第4層	40~65cm	腐植を欠く黄褐灰(2.5Y5/2)のSで未風化小半角礫(軽石)に富む。単一状。酸化沈積物あり。調査時の湿り半湿。境界明瞭。
第5層	65cm~	暗黄灰(2.5GY4/1)の未風化小、中円礫層。湧水。多湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~12	2.2	40.9	30.8	17.7	10.6	SL	1.14	0.14	8	2.0	5.75	4.55
2	12~30	1.9	44.6	30.0	5.2	20.2	SCL	1.05	0.14	8	1.8	5.75	4.6
3	30~40	1.8	48.2	30.0	15.2	6.6	SL	-	-	-	-	6.25	4.95

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30°C NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		燐酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	1.25	11.1	4.7	2.8	0.5	40.2	7.60	3.85	7.60	6.9	1.64	0.76
2	1.25	10.3	4.7	1.9	0.5	43.6	6.56	2.97	6.56	6.5	1.64	0.64
3	0.30	9.8	4.9	2.1	0.5	47.5	-	-	-	4.9	2.04	

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として軽舞統、東和統などがある。両統とも上層に未風化小円礫(硅岩、砂岩)がなく本統と区分することができる。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温 7℃、年平均雨量 1,207mm。春季～夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続  
き、冬季は積雪少なく土壤は 70cm内外凍結する。

D 植生および利用状況

水田（一毛作田）

E 農業上の留意事項

沢の上流域にあつて灌溉水温が低くかつ有効土層が浅いことから透水性がやゝ大きく低収である。  
灌溉水温上昇施設を要する。また客土により透水性の軽減を図ることが必要である。さらに暗渠によ  
り全域地下水位の低下を図るべきである。堆肥の施用、磷酸の増施を図ることに留意し、窒素、加  
里の分肥を考慮すべきである。

F 分布 北海道勇払郡厚真町宇隆

調査および記載責任者 後藤計二（北海道立中央農業試験場）  
年月日 昭和42年3月

上 宇 隆

示性分級式（水田）

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表有表耕 効土耘土土の	湛作作易遊グ 表表表 土土分 土土下化 土土解	土 透保湿 保固土 置	自 然 層分換	養 有 微酸 有 障 災
	の風 の乾透cmの 還有機鉄 化 乾 沃 状豊含	の風 の乾透cmの 還有機鉄 化 乾 沃 状豊含	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す
	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 層の のの 粘土の 高土 密 量度	の 水水潤肥肥定塩の 石苦加磷窒珪 害質 害の	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す	の 性 態 量 物的 水り 害理 冠す

tdgplrwfnia

③Ⅱ IⅡ I I 1 2 1 Ⅱ 3 2 I 1 3 2 --- Ⅱ 2 1 2 Ⅱ 2 1 1 2 3 -- 1 1 Ⅱ 1 2 I 1 1

团单地独

③Ⅲ IⅡ I I 1 2 1 ----- Ⅲ 1 2 3 Ⅱ 2 1 2 Ⅱ 2 1 1 2 -- 1 1 Ⅱ 1 2 I 1 1

簡略分級式 Ⅱ d l f n

③Ⅲ w Ⅱ d f n i

A 土壤区の特徴

この土壤区は上宇隆統に属する。表土は 30～40cmで厚いが有効土層は 50～60cmでやゝ浅い。  
中粒質で粘着性弱く耕起、砕土は容易である。湛水透水性は中位で一部やゝ大きいところも存する。  
根系の障害は認められない。保肥力、塩基状態は中で固定力は小さく自然肥沃度は中位である。養肥  
は中位である。物理的障害は少ない。増冠水のおそれがない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

灌漑水温上昇施設および客土が望ましい。また全域暗渠により地下水位の低下を図ることが必要である。堆厩肥の施用、磷酸の増施、窒素、加里の分肥を考慮すべきである。区画拡大にあたり、大型機械の運行は可能であるが表土処理および補正客土を要する。

D 分布 北海道勇払郡厚真町字隆

記載責任者 後藤 計二 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和42年3月

北 軽 舞 統

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~25cmで腐植含量10~16%、土性はCL、L(客土)で泥炭に富む~泥炭質。色は2.5Y~7.5Yで彩度1~2、明度3。発達弱度の細塊状構造。ち密度1.0~1.1で疎。酸化沈積物を含む~富む。pH(H<sub>2</sub>O)4.9~5.0。下層との境界明瞭。

第2層は厚さ6~7cmで腐植含量1%以下、土性はSである。色は5Yで彩度2、明度5。単粒状。ち密度1.4で疎。pH(H<sub>2</sub>O)5.1。下層との境界明瞭。Ta-a層。

第3層は厚さ5~7cmでヨシからなる低位泥炭、分解不良。

第4層は厚さ3~5cmで土性S。砂丘砂層。

第5層は厚さ3~6cmでヨシからなる低位泥炭、分解不良。

第6層は厚さ50~70cmで土性S。未風化小半角礫(軽石)に富む~礫層。Ta-b層。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 北海道勇払郡厚真町軽舞

第1層	0~18cm	腐植に頗る富む黒褐(2.5Y3/2)のLiC。泥炭を含む。発達弱度の細塊状構造。ち密度1.0で疎。酸化沈積物を含む。pH(H <sub>2</sub> O)5.0。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第2層	18~25cm	黄黒(7.5Y3/1)のSOL。泥炭に富む~泥炭質。ち密度1.1で疎。酸化沈積物あり。pH(H <sub>2</sub> O)4.9。調査時の湿り湿。境界明瞭。
第3層	25~32cm	黄灰(5Y5/2)のS。単粒状。ち密度1.4で疎。pH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り湿。境界明瞭。Ta-a層。
第4層	32~39cm	黒褐(10YR2/2)のヨシ。分解不良。ち密度1.3で疎。調査時の湿り多湿。境界明瞭。
第5層	39~42cm	黄灰(5Y5/2)のS。単粒状。調査時の湿り多湿。境界明瞭。砂丘砂層。
第6層	42~46cm	暗褐(7.5YR3/3)のヨシ。分解不良。調査時の湿り多湿。境界明瞭。
第7層	46cm~	黄褐灰(5Y5/2)のSで未風化小半角礫(軽石)に富む~礫層。湧水。地下水位65cm。Ta-b層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	pH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~18	3.9	3.14	16.9	26.2	25.4	LiC	6.00	0.54	11	10.3	5.0	4.35
2	18~25	5.5	4.25	14.1	19.2	24.2	SCL	8.71	0.74	12	15.0	4.85	4.4
3	25~32	4.9	8.37	9.7	2.3	4.3	S	—	—	—	—	5.05	4.45
4	32~39	2.3	6.20	2.72	1.7	9.1	SL	—	—	—	—	4.45	4.1

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	30°C NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態 mg/100g		磷酸吸収係数	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O		乾土	湿土	N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
1	3.75	2.77	8.7	5.0	0.6	3.14	28.41	4.54	28.41	5.0	45.8	1.21
2	7.5	—	8.4	3.0	0.2	—	19.70	6.64	19.70	2.1	72.1	1.17
3	6.25	1.5	0.3	0.3	0.7	2.17	—	—	—	7.2	4.2	—
4	4.06	—	—	—	—	—	—	—	—	3.3	40.8	—

A-2 他の土壌統との関係

本土壌に類似する統として上厚真統がある。上厚真統は泥炭層がないかあるいは極めて薄層(2~3cm)であることにより区分される。

A-3 母材 ヨシノ非固結火成岩

A-4 堆積様式 集積(低位泥炭)ノ風積(火山性)

B 地形 平坦な低地

C 気候

年平均気温7°C、年平均雨量1,207mm。春季~夏季は濃霧が来襲し低温である。秋季は好天が続く、冬季は積雪少なく土壌は70cm内外まで凍結する。

D 植生および利用状況

水田(一毛作田)

E 農業上の留意事項

大部分明渠排水が完備したが一部まだ残されており完成が望まれる。続いて全域暗渠が必要である。また客土も量は十分でなくさらに客入すべきである。透水性は大きく堆肥の施用、磷酸の増施、窒素、加里の分肥が必要である。防風霧林の完備を要す。

F 分 布 北海道勇払郡厚真町鯉沼、軽舞

調査および記載責任者 後藤計二(北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和42年3月

北 軽 舞

示性分級式（水田）

土壌	表有表耕	湛	酸	士	自	養	障	災
生	効	表表表	作作	易遊グ	透保湿	保固士	置	有
産	土	土土土	土土土	分	然	層分換	有	微酸
力	土	土の	土の	離	地	の性	態	量
可	の	の風	の風	性				
能	層	の乾	の乾	酸				
性	の	の粘	の粘	イ	の	水水潤肥肥定	の	石苦加磷窒珪
等	厚	の礫	の礫	機	乾	沃	状	基
級	深	含	土着	鉄				灰土里酸素酸要
		難	の硬	化	性	力	態	素
		土	の密	含	性	力	態	素
		性	性	量	性	力	態	素
		易	性	量	性	力	態	素
			性	量	性	力	態	素
			性	量	性	力	態	素
			性	量	性	力	態	素
			性	量	性	力	態	素
			性	量	性	力	態	素

t d g p    l    r    w    f    n    i    a  
 (稻) III II III II 3 2 2 III 3 2 II 3 2 3 --- III 1 1 3 I 1 1 1 2 1 - 1 2 III 1 3 I 1 1  
 (畑) III II III II 3 2 2 ----- III 1 2 3 III 1 1 3 I 1 1 1 2 -- 1 2 III 1 3 I 1 1

簡略分級式 III d l f i II t p v  
 (畑) III d w f i II t p

A 土壌区の特徴

この土壌区は北軽舞統に属する。表土は15~25cmであるが有効土層は浅い。微粘質の客土により粘性や強いが耕起、砕土は容易である。湛水透水性は大きい。易分解性有機物多く、酸化鉄中であるが、透水性が大きく根系障害は認められない。保肥力大きく、固定力小さいが塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土の養分は多い。物理的障害が大きい。増冠水のおそれはない。

B 植生および利用状況

水田（一毛作田）

C 地力保全上の問題点

明渠、暗渠の完備を要す。また客土量の増加を図るべきである。透水性大きく堆厩肥の施用、磷酸の増施、窒素、加里の分肥を考慮すべきである。防風霧林の完備を要する。区画拡大にあたり大型機械の運行は可能である。その場合表土処理、補正客土を要する。

D 分布

北海道勇払郡厚真町軽舞、鯉沼  
 記載責任者 後藤 計 二（北海道立中央農業試験場）  
 年 月 日 昭和42年3月

3 保全対策地区区分及び説明

- [ 畑 ]
- 1) 保全対策区の説明

土壌断面の性状、土壌改良対策などを考慮のうえ、次の4保全対策地区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区名	面積 (㌔)	主な特徴	重要な保全対策
柏原保全対策地区	柏原-1、柏原-2 柏原-3	227	過干のおそれが多い(砂礫質)腐植少なく有効土層が浅い。保肥力小さく養肥分に乏しい。	客土、灌漑施設の設置 有機物の施用、深耕、尿撒布 遅効性肥料の併用
美々保全対策地区	厚真-1、厚真-2 高丘、上幌内	243	過干のおそれが多い(砂礫層)腐植少なく有効土層が浅い。保肥力小さく養肥分に乏しい。下層に中粒質の腐植含量の多い火山灰層が存在	深耕による埋没腐植層との混層耕 (cmは耕深) 厚真-1: 45~75cm 厚真-2: 35~40cm 高丘: 30~40cm 上幌内: 65~70cm 堆厩肥、炭カル: 220~250kg/10a 熔磷: 100kg/10a
弁天保全対策地区	静川-1、静川-2 弁天、富野、ウトナイト、幌里	1020	排水不良 土性が砂質 保肥力小さい 有効土層浅い	明渠、暗渠 客土、石灰、熔磷 有機物施用、遅効性肥料の併用
豊川保全対策地区	豊川、幌内	184	有機物含量が少ない	有機物施用

## 2) 保全対策地区説明

### <柏原保全対策地区>

#### (1) 分布

郡市町村名	畑面積 (㌔)		備考 (該当土壌区名)
	普通畑	計	
勇払郡厚真町	227	227	柏原-1、柏原-2、柏原-3

#### (2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

##### ① 特徴と問題点

粗粒な火山砂礫層が深く堆積しており、現在の機械では下層に存在する細粒火山灰層と混層することは困難である。従って客土が必要である。客土材料としては優良粘土が得られないが、台地の下層に存在する火山灰質の壤土層を利用することが望ましい。堆肥の施用もゆるがせにできない。また遅効性肥料の利用、草地に対する追肥の励行、尿撒布に留意すべきである。

##### ② 営農の方向

気象的要因からも現在の主畜経営が望ましい。多頭飼育に進みつつあるが収量は低く飼料確保が伴っていない。土壌の改良を図って収量増加のための方策に留意すべきである。開拓地では増反による経営面積の拡大が必要である。

③ 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	真 施 方 法	対策資材、及び機械器具の種類、型式、数量
過 干 保肥力小 腐植少ない	2 2 7	客土 優良粘土は得られないが、台地の下層に存在する火山灰質の礫土層を利用 堆肥施用、尿撒布の励行	補助が望ましい。 石灰、磷酸の増施 堆肥舎、尿溜、尿撒布器

< 美々保全対策地区 >

(1) 分 布

郡市町村名	畑面積 (ha)		備 考 ( 該 当 土 壤 区 名 )
	普通畑	計	
勇 払 郡 厚 真 町	2 4 3	2 4 3	厚真-1、厚真-2、高丘、上幌内

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

上層には砂礫層（軽石）からなる火山灰が堆積し、下層には細粒で腐植含量多く保水性の高い火山灰層が存在する。従つてこの両層を混層することにより保肥力の増大、保水力の増大が図られる。この場合石灰、熔燐など土壌改良資材の投入並びに堆肥の施用、さらに遅効性肥料の利用が大切である。牧草栽培が主体であり尿撒布も効果的である。

② 営農の方向

気象的要因からも現在の主畜経営が望ましい。多頭飼育に進みつつあるが生産力は低く飼料の確保に苦慮しており、土壌の改良を図つて飼料確保に意を注ぐべきであらう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材、及び機械器具の種類、型式、数量
過 干  地 力 増 進 対 策	2 4 3	深耕 (cmは耕深) 厚真-1 : 45 ~ 75 cm 厚真-2 : 35 ~ 40 cm 高丘 : 30 cm、上幌内 : 65 ~ 70 cm 堆肥施用、尿撒布、 土壌改良資材投入 粒状固形肥料の利用	50 HP以上大型機械 深耕プラウ 堆肥舎、尿溜、尿撒布器 石灰 300 ~ 400 kg / 10 a 熔燐 80 ~ 100 kg / 10 a ベントナイト 200 kg / 10 a

＜ 弁天保全対策地区 ＞

(1) 分 布

郡 市 町 村 名	畑 面 積 (ha)		備 考 ( 該 当 土 壤 区 )
	普 通 畑	計	
勇 払 郡 厚 真 町	1 0 2 0	1 0 2 0	静川-1、静川-2、弁天、富野、ウトナイト、幌里

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全の問題点

① 特徴と問題点

勇払原野および厚真川下流域の低湿地帯をなすところであり、土壌は粗粒火山砂礫地である。従つて湿性が著しいこと、土壌は保肥力が弱く養肥分の乏しいところで低位生産地となつている。

② 営農の方向

勇払原野は酪農による主畜経営である。乳牛の頭数増に伴い飼料の確保が一部では困難になつており、かゝる点から土地生産力の向上対策が必要である。河川流域では明渠の施行と共に漸次造田化の気運にあり排水、客土など大規模な基盤整備事業が必要である。

③ 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材、及び機械器具の種類、型式、数量
排 水 客 土 地 力 増 進 対 策	1 0 2 0	幹線明渠の整備、暗渠の施行及び明渠の浚渫管理 優良粘土の客入 堆厩肥施用、遅効性肥料の利用	石灰 (200~300kg/10a) 熔燐 (80~100kg/10a) 堆肥舎、尿溜、尿撒布器

＜ 豊川保全対策地区 ＞

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	畑 面 積 (ha)		備 考 ( 該 当 土 壤 区 )
	普 通 畑	計	
勇 払 郡 厚 真 町	1 8 4	1 8 4	豊川、幌内

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

豊川は粗粒火山灰層の上部に埴質な河成堆積物層が20cm内外堆積したところであり、幌内は厚真川上流域の土性の粗い河成堆積物層からなつており何れも生産力はやゝ高いが腐植含量が少ないこと、根圏域がやゝせまいことなどがあげられる。主体が水田管理におかれ、畑は粗放な管理である。今後は造田の対象地とすべきであろう。畑として利用する場合は堆厩肥の施用につとめ、また粒状固形肥料の利用も考慮すべきである。

② 営農の方向



水田経営が行なわれているが灌漑水不足から畑となつているが農用水のダムが建設され造田となる  
ところである。

③ 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	実施方法	対策資材、及び機械器具の種類、型式、数量
腐植欠乏透 水が大	184	堆肥、緑肥の施用 粒状固形肥料の利用	堆肥舎、尿溜

〔水田〕

1) 保全対策区の説明

土壌断面の性状、土壌改良対策などを考慮のうえ次の3保全対策地区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
軽舞保全 対策地区	上厚真 上野 軽舞 上宇隆 北軽舞	1,517	過湿である。 有効土層浅く漏水大。  養肥分に乏しい 区画の小さいところが多い	排水 客土 有機物施用、磷酸増施 分追肥の検討 塩基の補給 区画拡大
共栄保全 対策地区	共栄	78	有効土層浅い 区画が小さい	有機物施用 分追肥の検討 区画拡大
新町保全 対策地区	新町 東厚真 富里 東和 下宇隆	607	有機物少ない 区画が小さい  一部区画整理が済んでいる	有機物施用 区画拡大

2) 保全対策地区別説明

< 軽舞保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)		備考 (該当土壌区)
	水田	計	
勇払郡厚真町	1,517	1,517	上厚真、上野、軽舞、上宇隆、北軽舞

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

土壌は養肥に乏しい粗粒火山砂礫層の上部に粘土、客土或いは河成堆積物層が薄く堆積して透

水性の大きいこと、地下水位が一般に高く40～50cmに出現することが特徴となつている。一部区画拡大を実施しているが殆んどは小区画である。大型機械の運行は可能であり、明、暗渠の整備、用水路の改善、漏水の防止など地域毎の基盤整備として残されている問題が多い。表土処理を要す。

② 営農の方向

水田単作である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材、及び機械器具の種類、型式、数量
排水	上 厚 真 上 野 軽 舞 上 宇 隆 北 軽 舞	地域全体の計画的な明渠、暗渠の完備	工事費の助成
透水性小区画 有機物少 濃 霧	1.517	優良粘土の客入 区画拡大、表土処理要す。 堆厩肥の施用 窒素、加里の分肥 防風霧の完備	工事費の助成 燐酸(過石1:熔燐1)50kg/10a 硅カル 300kg/10a

< 共栄保全対策地区 >

(1) 分 布

郡市町村名	面 積 (ha)		( 備 考 考 区 ) ( 該 当 土 壤 区 )
	水 田	計	
勇 払 郡 厚 真 町	78	78	共 栄

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

土壌は養肥分の少ない粗粒火山砂礫層の上部に河成堆積物層が薄く堆積して透水性が大きいことが特徴である。区画拡大にあたり大型機械の運行は可能であるが表土処理を要す。

② 営農の方向

水田単作である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材、及び機械器具の種類、型式、数量
有効土層浅い 塩基の補給 小区画 施肥法改善 濃 霧	共 栄    78	堆厩肥の施用 優良粘土の客入 燐酸増施 硅カル、熔燐の施用 区画拡大、表土処理を要す 窒素、加里の分肥 防風霧林の完備	工事費助成

＜ 新町保全対策地区 ＞

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)		備考 ( 該 当 土 壤 区 )
	水 田	計	
勇 払 郡 厚 真 町	6 0 7	6 0 7	新町、東厚真、富里、東和、下宇隆

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

土壌は泥岩、砂岩を母材とした河成堆積物層で一般に粘質であり、有効土層も深く水田としては生産力の高い地区である。なお有機物含量少ない(2%以下のところが多い)。一部を除いては小区画が多い。大型機械の運行は可能であるがスリップのおそれがある。

② 営農の方向

水田単作である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材、及び機械器具の種類、型式、数量
有機物含量少 施肥法改善	新 町 東 厚 真 富 里 東 和 下 宇 隆 6 0 7	堆厩肥増施 全層、表層施肥法を積極的にとりあげるべきである。 分肥にあたっては気候、生育状況により慎重を要す。	

#### 4 調査成績一覽表

##### 1) 土壤分析成績

(畑)

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学 性							現地における 100cc				
						風乾 細土中		細土無機物中					土性	容積 g	固相容積 CC	水分容積 CC	
						水	腐	粗	細	砂	シル	粘					
						分 %	植 %	砂 %	砂 %	計 %	ト %	土 %	性				
柏	柏原1	5	1	0~9		1.7	8.1	74.4	20.3	94.7	4.4	0.6	S				
			2	14~38		1.7	—	—	—	—	—	—	—	G			
			3	38~125		7.7	14.2	44.1	26.3	70.4	19.9	9.7		S L			
			4	125~		7.2	—	21.3	45.3	66.6	24.7	8.9		S L			
	柏原2	2	1			1.8	2.68	75.7	15.8	91.5	4.7	3.8	S				
			2			0.0	—	88.6	5.4	94.0	3.4	2.6		S			
	原	柏原3	3	1			1.2	0.81	86.7	8.1	94.8	4.0	1.2	S			
2						0.8	—	93.2	2.1	95.3	2.8	1.9		S			
3						7.9	0.91	44.3	30.8	75.1	15.9	9.0		S L			
厚 真	厚真1	5	1			2.0	2.78	77.4	18.0	95.4	3.6	1.0	S				
			2			0.8	—	97.6	1.7	99.3	0.5	0.2		S			
			3			6.4	8.15	50.0	28.2	78.2	21.5	0.3		S L			
			4			4.1	2.50	81.5	13.2	94.7	2.5	2.8		S			
			5			12.1	8.37	39.2	40.6	79.8	19.2	1.0		S L			
	厚真2	6	1			1.8	2.01	82.0	10.8	92.8	2.5	4.7	S				
			2			1.3	—	96.9	1.6	98.5	0.5	1.0		S			
			3			6.1	4.84	60.5	25.7	86.2	9.6	4.2		L S			
			4			2.6	1.52	86.4	10.4	96.8	0.4	2.8		S			
	高 丘	8	1			0.9	2.42	73.9	17.3	91.2	5.4	3.4	S				
2					5.8	8.37	51.7	18.0	69.7	17.1	13.2		S L				
3					5.4	4.62	76.8	13.2	90.0	6.8	3.2		L S				
4					12.1	9.45	24.0	55.3	79.3	13.7	7.0		S L				
5					17.4	—	15.9	39.4	55.3	36.3	8.4		L				

性 理 学 容 中 空 气 容 積 CC		化 学 性										石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 效 態 磷 酸 mg/ 100g
		p H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置換性塩基 mg/100g					
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
		6.0	5.6	0.3	4.72	0.45	10	4.6	3.2	0.8	0.1	69.6	885	4.2
		6.2	5.2	0.3	—	—	—	3.1	1.6	1.1	0.1	51.6	888	2.1
		6.1	4.9	1.0	8.24	0.51	16	13.8	10.0	0.9	0.5	7.25	1,302	tr
		6.2	5.2	0.3	—	—	—	13.6	3.0	1.1	0.5	22.1	2,402	—
		6.4	5.15	0.30	1.67	0.14	12	6.2	114.7 4.1	13.5 0.7	5.1 0.1	62.5	551	29
		6.75	5.95	0	—	—	—	0.1	9.5 0.3	—	11.0 0.2	—	—	—
		6.6	5.55	0	0.47	0.06	8	1.7	18.5 0.7	—	3.3 0.1	37.5	142	14.6
		6.85	6.3	0	—	—	—	0.1	9.5 0.3	—	3.3 0.1	—	41	6.0
		6.05	4.85	0.60	0.53	0.39	13	30.0	29.4 10.5	29.1 1.4	—	35.0	2,442	0.4
		6.45	5.35	0.30	1.64	0.15	11	7.7	136.2 4.9	6.8 0.5	5.1 0.1	63.1	429	6.1
		6.95	6.35	0	—	—	—	0.1	9.3 0.3	—	1.6 0.0	—	101	6.0
		6.55	5.45	0	4.73	0.33	—	28.5	569.7 20.3	54.4 2.7	1.1 0.0	71.4	2,162	tr
		6.65	5.65	0	1.45	0.13	11	7.6	107.3 3.8	13.9 0.7	3.4 0.1	50.0	1,260	tr
		6.75	5.7	0	4.85	0.47	10	37.2	735.1 26.2	45.9 2.3	9.4 0.2	70.6	2,964	tr
		6.75	5.75	0	1.16	0.11	10	6.8	133.3 4.8	27.3 1.4	5.1 0.1	70.1	429	6.5
		6.75	6.1	0	—	—	—	22	9.4 0.3	6.7 0.3	1.6 0.0	14.2	123	4.5
		6.25	5.25	0.30	2.81	0.23	12	4.6	149.5 5.3	—	10.7 0.2	115.5	1,905	7.2
		6.45	5.45	0	0.88	0.09	10	4.8	38.3 1.4	—	5.1 0.1	27.6	845	0.4
		5.95	4.85	0.30	1.40	0.17	8	6.7	65.8 2.4	6.7 0.3	6.6 0.1	34.3	485	7.7
		6.15	5.15	0.30	4.85	0.53	9	24.1	377.6 13.5	14.1 0.7	15.9 0.3	55.8	1,991	tr
		6.35	5.35	0.30	2.67	0.30	9	14.4	168.5 6.0	35.4 1.8	70.5 1.5	41.6	1,739	tr
		6.15	5.25	0.30	5.49	0.65	8	38.9	372.9 13.3	38.3 1.9	5.7 0.1	34.2	3,033	tr
		6.0	5.45	0	—	—	—	29.5	193.1 6.9	32.4 1.6	4.0 0.1	23.1	3,490	tr

保全対象区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学 性							現地における 100cc				
						風乾 細土中		細土無機物中					土 性	容積 重♀	固相 容積 CC	水分 容積 CC	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %					
	上幌内	10	1 2 3 4 5			2.3 5.8 4.1 4.1 4.4	2.40 7.71 3.59 1.67 —	60.8 44.5 71.8 8.7 1.6	19.1 24.0 15.4 13.9 25.1	79.9 68.5 87.2 22.6 26.7	11.4 18.9 8.6 46.3 45.7	87 12.6 4.2 31.1 27.6	SL SL LS SiC SiC				
弁 天	静川1	14	1	0~27		3.3	3.6	67.3	20.5	87.8	9.2	3.0	LS				
			2	27~47		0.9	—	73.1	18.7	91.8	7.3	09	S				
	静川1	11	1	0~10		2.0	2.4	75.7	17.0	92.7	5.5	1.8	S				
			2	10~35		1.9	1.4	76.9	18.6	95.5	2.3	22	S				
	弁天	15	1	0~14		2.5	14.1	76.8	15.7	92.5	4.6	2.9	S				
			2	14~21		3.6	—	71.8	15.7	87.5	6.3	62	LS				
	天 里	幌	26	1			2.1	1.51	65.8	15.7	81.5	11.4	7.1	SL			
				2			1.4	—	91.8	1.9	93.7	0.9	5.4	LS			
				3			1.4	—	93.2	18	95.0	1.7	3.3	S			
				4			3.1	0.89	7.3	45.1	52.4	32.5	15.1	L			
		ウナイト	34	1			4.5	22.1	—	—	—	—	—	ヨシ			
	富野			1			2.2	2.01	58.2	12.4	70.6	14.1	15.3	SL			
2						1.1	—	77.9	18.0	95.9	1.3	2.8	S				
3						0.9	—	97.1	1.6	98.7	0.2	1.1	S				
豊川	川	12	1			3.1	1.83	41.6	13.0	54.6	23.6	21.8	CL				
			2			1.9	1.19	61.3	16.3	77.6	12.2	10.2	SL				
			3			1.0	—	94.2	2.7	96.9	0.8	23	S				
	幌内	21	1			2.0	1.96	65.8	16.0	81.8	9.7	8.5	SL				
			2			1.9	0.48	51.7	37.0	88.7	6.1	5.2	LS				
			3			2.4	0.56	43.9	35.9	79.8	12.8	7.4	SL				
			4			1.4	—	90.7	6.8	97.5	0.6	1.9	S				

		化 学 性												
理学性 容中	孔 隙 容 积 CC	pH		置 换 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
		6.15	4.75	0.60	1.38	0.16	9	10.2	172.4/6.2	27.4/1.4	238/0.5	59.8	557	14.7
		6.25	5.15	0.30	4.47	0.53	9	24.8	407.4/14.5	49.9/2.5	14.1/0.3	58.4	1,905	0.4
		6.45	5.25	0.30	2.03	0.22	9	13.0	165.8/5.9	27.8/1.4	6.9/0.1	45.3	1,365	—
		6.0	4.75	0.30	0.97	0.13	8	20.9	390.5/13.9	98.1/4.9	73.0/1.6	66.8	945	tr
		6.05	4.45	0.60	—	—	—	20.2	372.0/13.3	133.6/6.6	74.9/1.6	65.3	924	tr
		6.6	4.9	0.50	2.10	0.29	7	6.4	71.5/2.55	8.7/0.43	—	39.8	429	3.9
		6.8	5.2	0.13	—	—	—	2.0	24.1/0.86	9.5/0.47	—	43.0	225	2.2
		6.4	5.8	0.13	1.39	0.11	13	14.3	—	—	—	40.3	417	1.0
		6.8	5.0	0.25	—	—	—	32.7	—	—	—	76.6	302	1.8
		5.1	4.3	3.56	7.27	0.70	10	18.3	367.7/13.10	59.3/2.94	—	71.7	566	—
		5.8	5.0	0.30	—	—	—	22.4	64.5/2.30	8.1/0.40	19.0/0.40	10.2	767	—
		5.65	4.45	1.25	0.88	0.12	7	7.3	133.3/2.7	28.2/1.4	23.7/0.5	36.9	30.6	7.8
		6.55	5.65	0	—	—	—	2.0	16.4/0.3	6.0/0.3	3.3/0.1	15.0	41	2.8
		6.85	5.95	0	—	—	—	1.7	—	6.0/0.3	1.6/0.0	—	0	3.7
		6.25	4.85	0.30	0.62	0.10	6	17.2	574.2/11.7	90.7/4.5	82.6/1.8	68.0	624	2.9
		5.6	4.5	1.20	—	—	—	22.6	5.39	/0.29	—	23.8	642	1.0
		5.75	4.5	1.85	1.17	0.15	8	10.2	267.2/5.5	82.3/2.7	11.8/0.3	52.9	53.6	3.3
		6.45	5.45	0	—	—	—	3.4	4.95/1.0	10.0/0.3	3.3/0.1	30.3	327	6.5
		6.7	6.0	0	—	—	—	2.4	—	10.0/0.3	1.6/0.0	—	81	5.2
		5.55	4.45	1.25	1.06	0.14	8	14.1	24.14/8.6	62.2/3.1	4.81/1.0	61.4	666	14.9
		6.2	5.05	0.30	0.69	0.11	6	7.1	133.1/4.8	40.9/2.0	8.5/0.2	66.1	510	9.0
		6.85	6.25	0	—	—	—	1.7	/	20.2/0.7	1.2/0.0	—	101	3.2
		5.75	4.65	0.60	1.14	0.16	7	9.3	250.5/5.1	20.2/1.0	20.4/0.4	54.8	34.7	22.4
		6.45	4.85	0.30	0.30	0.08	4	7.6	199.5/4.1	54.4/2.7	27.1/0.6	52.6	327	5.3
		6.25	4.95	0.30	0.33	0.06	6	9.2	234.4/4.8	42.3/2.1	29.0/0.6	51.0	351	6.2
		6.65	5.75	0	—	—	—	2.0	3.25/0.7	20.2/1.0	—	23.5	101	4.8

2) 土壤分析成績

(水 田)

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学 性										pH				
						風乾 細土中		細土無機物中					土性	現地における 性 100cc容中					H <sub>2</sub> O	KCl
						水	腐	粗	細	砂	シ	粘		容積重 <sub>g</sub>	固相容積cc	水分容積cc	空気容積cc	孔隙率%		
						分%	植%	砂%	砂%	計%	ト%	土%								
上	上厚真1	11'	1	0~12		3.2	3.3	22.3	31.5	53.8	25.5	20.7	CL					5.05	4.1	
			2	12~20		3.2	3.4	26.4	28.8	55.2	25.1	19.7	CL					5.65	4.5	
			3	20~35		0.8	—	75.1	11.6	86.7	10.3	3.0	S					6.25	5.45	
	上厚真1	14'	1	0~13		0.6	3.1	41.7	18.7	60.4	21.8	17.8	CL					5.15	4.4	
			2	13~15		4.3	2.1	55.8	18.4	74.2	14.8	11.0	SL					5.65	4.65	
			3	15~37		1.4	—	76.0	15.7	91.7	5.1	3.2	S					6.35	5.50	
			4	68~		1.1	—	76.5	11.3	87.8	9.2	3.0	LS					6.35	5.75	
	上厚真1	17'	1	0~12		3.0	3.8	35.5	20.5	54.0	27.3	18.7	CL					5.35	4.25	
			2	12~14		2.1	3.7	55.8	15.4	71.2	17.0	11.8	SL					5.35	4.35	
			3	14~30		1.1	—	79.5	16.5	96.0	2.3	1.7	S					6.35	5.7	
	上野	16'	1	0~12		2.7	2.4	49.5	22.0	71.3	17.4	11.2	SL					5.55	4.5	
			2	12~17		2.8	2.5	47.3	23.0	70.3	18.5	11.1	SL					5.55	4.5	
3			17~28		1.3	—	67.8	24.8	92.6	4.5	2.9	LS					6.35	5.6		
4			28~46		1.5	—	79.6	9.4	89.0	9.5	1.5	S					6.45	6.1		
輕舞	23'	1	0~13		6.1	5.1	4.1	29.4	33.5	40.1	26.4	LiC					5.35	4.4		
		2	13~25		5.6	8.6	0.7	44.5	45.2	33.8	21.0	CL					6.15	5.2		
		3	25~42		5.2	8.1	1.1	39.5	40.6	38.7	20.7	CL					5.75	4.7		
上宇隆	29'	1	0~12		2.2	2.0	40.9	30.8	71.7	17.7	10.6	SL					5.75	4.55		
		2	12~30		1.9	1.8	44.6	30.0	74.6	5.2	20.2	SCL					5.75	4.6		
		3	30~40		1.8	—	48.2	30.0	78.2	15.2	6.6	SL					6.25	4.95		
北輕舞	34	1	0~18		3.9	10.3	31.4	16.9	48.3	26.2	25.4	LiC					5.0	4.35		
		2	18~25		5.5	15.0	42.5	14.1	56.6	19.2	24.2	SCL					4.85	4.4		
		3	25~32		4.9	—	83.7	9.7	93.4	2.3	4.3	S					5.05	4.45		
		4	32~39		2.3	—	62.0	27.2	89.2	1.7	9.1	SL					4.45	4.1		



化 学 性															
置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30℃ NH <sub>4</sub> -N 發 生 量		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
	T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾 土	湿 土	F <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N	
8.12	1.94	0.22	9	153	120.8	56.6	28.6	28.1	9.69	7.86	11.71	3.85	5.4	11.71	1.58
1.25	1.97	0.20	10	16.3	25.10	57.6	21.4	50.3	1.010	6.20	9.61	3.41	2.9	9.61	2.08
—	—	—	—	2.2	19.6	6.0	5.2	31.8	2.63	—	—	—	8.5	—	—
2.50	1.81	0.17	11	103	117.4	56.2	24.3	40.6	8.08	4.98	8.30	3.32	8.0	8.30	0.90
1.25	1.21	0.17	7	6.3	99.2	4.9	17.6	55.5	7.14	5.42	8.04	2.62	8.0	8.04	1.00
0	—	—	—	2.2	53.8	1.7	5.2	84.9	5.05	—	—	—	3.2	—	—
0	—	—	—	0.5	9.5	14.1	5.2	64.1	2.23	—	—	—	6.5	—	—
5.0	2.19	0.25	9	16.1	170.7	43.3	21.5	37.7	1.030	7.25	10.66	3.41	2.9	10.66	1.20
3.75	2.16	0.23	9	14.1	175.5	54.0	23.1	44.3	9.18	5.60	9.53	3.93	3.3	9.53	1.25
0	—	—	—	8.7	9.5	6.8	3.4	3.4	3.84	—	—	—	2.4	—	—
2.50	1.37	0.16	9	9.2	120.2	35.8	12.4	46.2	6.18	4.72	8.30	3.58	9.0	8.30	0.81
1.87	1.47	0.16	9	8.9	135.1	46.7	10.7	54.0	6.80	4.29	6.82	2.53	8.2	6.82	0.78
0	—	—	—	2.1	29.4	14.1	3.4	47.6	4.45	—	—	—	9.3	—	—
0	—	—	—	0.5	5.6	6.8	3.4	40.0	2.25	—	—	—	4.9	—	—
2.50	2.97	0.30	10	26.2	335.3	9.4	28.8	45.5	1.504	13.12	18.53	5.41	0.9	18.53	1.35
0.30	4.98	0.38	13	37.6	680.2	178.0	42.1	64.4	1.378	8.31	11.45	3.14	16.1	11.45	0.99
0.60	4.67	0.40	12	37.4	515.9	178.0	40.3	49.1	1.335	—	—	—	6.8	—	—
1.25	1.14	0.14	8	11.1	13.40	5.70	2.65	40.2	1.64	3.75	7.60	3.85	6.9	7.60	0.76
1.25	1.05	0.14	8	10.3	13.40	38.9	24.6	43.6	1.64	3.59	6.56	2.97	6.5	6.56	0.64
0.30	—	—	—	9.8	138.7	42.5	26.4	47.5	2.04	—	—	—	4.9	—	—
3.75	6.00	0.54	11	27.7	243.9	102.2	30.7	31.4	4.58	23.87	28.41	4.54	5.0	28.41	1.21
7.5	8.71	0.74	12	—	235.2	60.4	9.6	—	7.21	13.06	19.70	6.64	2.1	19.70	1.17
6.25	—	—	—	1.5	9.5	6.8	3.4	21.7	4.2	—	—	—	7.2	—	—
4.06	—	—	—	—	—	—	—	—	4.08	—	—	—	3.3	—	—

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学 性										p H				
						風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	現 地 に お け る 理 学 性 1 0 0 cc 容 中					H <sub>2</sub> O	KCl
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 %	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %		
共 栄	共 栄	12	1	0~14		3.6	2.6	27.2	21.3	48.5	31.9	19.6	CL						5.6	4.45
			2	14~19		3.4	2.9	31.1	15.3	46.4	31.7	21.9	CL						6.15	5.05
			3	19~44		0.9	—	73.1	17.7	90.8	4.4	4.8	S						6.4	5.55
富 里	新 町	18	1	0~13		4.3	4.5	4.0	19.2	23.2	48.7	28.0	SiC						5.55	4.35
			2	13~18		4.7	3.3	4.3	16.1	20.4	53.4	26.2	SiC						6.45	5.3
			3	18~30		4.4	—	7.1	7.6	14.7	55.2	30.1	SiC						6.55	5.4
			4	30~38		1.1	—	68.5	11.5	80.0	11.9	8.1	SL						6.85	5.65
			5	38~47		1.5	—	50.0	17.5	67.5	20.0	12.5	SL						6.75	5.55
	東 厚 真	19	1	0~16		3.4	3.2	1.0	41.7	42.7	35.9	21.4	CL						5.55	4.5
			2	16~21		3.6	2.3	1.2	48.7	49.9	31.5	18.6	CL						6.15	5.0
			3	21~30		3.4	1.0	0.3	49.8	50.1	34.3	15.6	CL						6.2	5.25
			4	30~53		1.3	—	3.1	21.0	24.1	48.6	27.3	SiC						6.25	5.2
			5	53~		3.6	—	0.5	37.3	37.8	44.3	17.9	CL						5.65	5.3
	富 里	20	1	0~11		3.2	4.2	15.4	35.3	50.7	29.7	19.5	CL						5.45	4.35
			2	11~21		2.9	2.4	18.9	34.0	52.9	28.2	18.9	CL						5.75	4.7
			3	21~50		1.6	—	57.5	17.5	75.0	16.0	9.0	SL						6.45	5.3
			4	50~		3.5	—	3.5	29.8	33.3	39.0	27.7	LiC						6.45	5.1
	東 和	21	1	0~12		2.5	3.8	42.0	29.4	71.4	16.7	11.9	SL						5.5	4.45
			2	12~20		2.5	2.7	41.4	28.6	70.0	19.1	10.9	SL						5.65	4.75
			3	20~32		1.7	—	52.2	27.2	79.4	13.9	6.7	SL						6.35	5.25
			4	32~38		4.0	—	8.7	20.9	29.6	47.2	23.2	SiCL						6.05	5.1
	下 宇 隆	22	1	0~12		2.7	4.2	23.5	16.5	40.0	36.2	23.8	CL						5.35	4.25
			2	12~23		4.1	4.3	12.7	15.0	27.7	44.8	27.5	LiC						6.35	5.3
3			23~40		4.7	—	5.2	8.0	13.2	55.3	31.5	SiC						6.25	5.15	
4			40~55		4.8	—	0.6	9.6	10.2	60.9	28.9	SiC						5.45	4.4	

置換酸度 Y <sub>1</sub>	化 学 性														
	有 機 物			塩基置換容量 mg/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	乾土効果	30°C NH <sub>3</sub> -N 発生量		有効態 mg/100g		遊離酸化鉄 %
	T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N	
1.97	1.48	0.18	9	19.2	323.3	94.3	35.9	59.8	957	4.90	8.66	3.76	10.8	8.66	0.80
0.30	1.67	0.17	10	13.3	212.2	65.3	23.3	56.3	957	3.32	5.77	2.45	9.9	5.77	1.09
0	—	—	—	2.2	29.4	14.1	3.4	45.4	384	—	—	—	7.3	—	—
3.75	2.61	0.21	12	22.6	309.8	98.5	38.0	48.6	1,113	5.16	8.92	3.76	25	8.92	1.04
0.30	1.91	0.18	11	25.6	494.6	135.6	45.3	68.8	1,197	3.50	6.03	2.53	15.1	6.03	1.00
0	—	—	—	26.8	489.0	146.3	43.5	64.9	1,197	—	—	—	13.8	—	—
0	—	—	—	5.0	83.5	6.8	8.7	58.6	42.5	—	—	—	10.1	—	—
0	—	—	—	7.6	167.9	49.7	15.8	77.6	67.4	—	—	—	10.6	—	—
3.75	1.86	0.20	9	17.5	261.6	86.8	32.2	53.0	1,020	7.08	10.75	3.67	6.2	10.75	0.98
0.60	1.32	0.16	8	17.9	323.0	106.6	35.8	65.5	1,103	2.37	6.82	2.45	9.1	6.82	0.98
0.30	0.60	0.13	5	19.3	367.8	119.5	41.2	67.6	999	—	—	—	11.1	—	—
0.30	—	—	—	23.4	453.1	117.1	51.0	69.0	1,515	—	—	—	15.0	—	—
0.30	—	—	—	21.2	419.1	119.7	44.8	70.4	957	—	—	—	22.4	—	—
5.62	2.43	0.21	12	17.9	226.0	68.5	25.0	45.0	845	6.64	10.49	3.85	12.0	10.49	0.71
0.60	1.39	0.20	7	17.7	261.6	72.3	19.6	52.6	927	4.89	8.74	3.85	4.9	8.74	1.09
0.30	—	—	—	7.9	138.5	28.4	12.2	62.3	653	—	—	—	8.9	—	0.64
0.30	—	—	—	22.6	438.5	112.2	62.7	69.1	1,020	—	—	—	10.4	—	0.89
3.12	2.20	0.21	—	12.9	129.8	57.4	21.3	35.6	763	8.57	12.50	3.93	7.4	12.50	0.75
0.60	1.54	0.17	—	12.4	159.5	57.2	16.0	45.7	721	3.05	5.41	2.36	4.5	5.41	1.25
0.30	—	—	—	8.9	158.1	71.1	26.4	63.2	510	—	—	—	8.1	—	—
0.60	—	—	—	31.0	474.9	146.7	45.3	54.4	1,186	—	—	—	5.8	—	—
6.25	2.43	0.24	10	20.1	221.5	72.3	23.2	39.0	948	7.61	12.24	4.63	9.0	12.24	0.91
0.30	2.48	0.22	11	24.5	457.0	131.4	30.7	66.2	1,103	5.51	7.87	2.36	13.4	7.87	1.20
0.30	—	—	—	27.5	466.8	202.8	41.9	60.3	1,407	—	—	—	8.4	—	—
3.12	—	—	—	30.5	323.0	188.0	45.5	37.7	1,323	—	—	—	—	—	—